

公益社団法人日本看護科学学会 2024年6月定時社員総会 議案書

日時 2024年6月15日(土) 13:00~15:30(予定)

場所 AP日本橋 〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-6-2 日本橋フロント 6F

【議事次第】

I. 開会

II. 理事長挨拶

III. 議長指名および議事録署名人の承認

IV. 報告事項

1. 理事会および社員総会報告

2. 総務報告

3. 2023年度事業報告

(1) 第43回日本看護科学学会学術集会開催

(2) 第44回・第45回日本看護科学学会学術集会準備

(3) 和文誌編集委員会

(4) 英文誌編集委員会

(5) 表彰論文選考委員会

(6) 研究・学術推進委員会

(7) 看護ケア開発・標準化委員会

(8) 若手研究者活動推進委員会

(9) 国際活動推進委員会

(10) 看護学学術用語検討委員会

(11) 社会貢献委員会

(12) 広報委員会

(13) 看護倫理検討委員会

(14) 利益相反委員会

(15) 研究倫理審査委員会

(16) 災害看護支援委員会

(17) 若手研究者助成選考委員会

(18) 研究助成選考委員会

(19) 会則等委員会

(20) 総務委員会

(21) COVID-19 看護研究等対策委員会

(22) 選挙管理委員会

(23) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会

② 看護系学会等社会保険連合

③ 日本学術会議

④ その他の機関

V. 審議事項

第1号議案 2023年度決算の承認および会計監査の報告

第2号議案 定款の変更(学生会員の設置)

第3号議案 定款施行細則の改正(学生会員の設置)

第4号議案 会員資格基準の改正(学生会員の設置および正会員の業績条件)

第5号議案 名誉会員の承認

VI. その他 学会総会のあり方の検討

VII. 閉会

公益社団法人日本看護科学学会 役員

理事長 吉沢 豊予子

副理事長 西村 ユミ

理事：有森 直子、池田 真理、井上 智子、大久保 暢子、鎌倉 やよい、
萱間 真美、グレッグ 美鈴、佐藤 和佳子、田口 敦子、仲上 豪二郎、
山川 みやえ、山本 則子、吉永 尚紀

監事：井部 俊子、数間 恵子

名誉会員

阿曾 洋子、稲岡 文昭、今村 節子、氏家 幸子、金川 克子、川嶋 みどり、
川村 佐和子、小島 操子、小玉 香津子、小山 眞理子、近藤 潤子、島内 節、
新道 幸恵、中島 紀恵子、中村 恵子、林 滋子、林 優子、菱沼 典子、
松野 かほる、矢野 正子、山崎 智子

賛助会員

(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、(株)へるす出版

(以上、五十音順・2024年4月1日現在)

日本看護科学学会学術集会会長

第44回学術集会会長

前田 ひとみ

第45回学術集会会長

有森 直子

第46回学術集会会長

西村 ユミ

社 員

【北海道】

青柳 道子
上田 泉
河口 てる子
川村 三希子
今野 美紀
定廣 和香子
澤田 いずみ
城丸 瑞恵
鷺見 尚己
照井 レナ
長谷川 真澄
樋之津 淳子
三国 久美
山田 律子

【東北】

アングアホッフ
ア 司寿子
安齋 由貴子
安保 寛明
大森 純子
角濱 春美
金子 さゆり
菅野 恵美
小林 淳子
坂本 祐子
佐藤 富美子
佐藤 和佳子
塩飽 仁
高橋 和子
高橋 有里
鄭 佳紅
中村 康香
福島 裕子
藤田 あけみ
布施 淳子
吉沢 豊予子
【関東A】
栗生田 友子
安梅 勅江
飯岡 由紀子
池内 彰子
牛久保 美津子
大澤 真奈美
岡 美智代
恩幣 宏美
角田 直枝

金泉 志保美
上山 真美
國清 恭子
近藤 由香
齋藤 基
清水 裕子
鈴木 幸子
高井 ゆかり
成田 伸
野崎 真奈美
橋本 晴美
東 めぐみ
堀越 政孝
松田 安弘
水野 道代
村井 文江
山下 暢子
吉田 久美子
涌水 理恵

【関東B】

有本 梓
池崎 澄江
石井 邦子
石丸 美奈
岡田 忍
小黒 道子
落合 亮太
数間 恵子
勝山 貴美子
叶谷 由佳
川名 るり
黒田 久美子
斉藤 しのぶ
酒井 郁子
櫻井 しのぶ
佐藤 紀子
佐藤 まゆみ
茂野 香おる
島袋 香子
清水 準一
諏訪 さゆり
高橋 良幸
谷口 千絵
谷本 真理子
田母神 裕美
中山 登志子
別府 千恵

水戸 優子
宮崎 美砂子
宮芝 智子
宮本 千津子
宮脇 美保子
村上 明美
村中 陽子
森 明子
湯浅 美千代
吉田 澄恵
和住 淑子
渡邊 千登世

【東京A】

麻原 きよみ
五十嵐 歩
池田 真理
井部 俊子
大久保 暢子
大田 えりか
奥 裕美
小山田 恭子
片岡 弥恵子
北村 言
坂本 すが
佐々木 美奈子
習田 明裕
鶴若 麻理
仲上 豪二郎
中山 和弘
西村 ユミ
林 直子
春名 めぐみ
宮本 有紀
麦田 裕子
山本 則子
吉岡 京子
米澤 かおり
【東京B】
秋山 正子
池亀 俊美
井村 真澄
井本 寛子
江本 リナ
岡谷 恵子
小川 久貴子
小澤 三枝子
萱間 真美

川原 由佳里
来生 奈巳子
草間 朋子
小林 信
坂井 志麻
佐藤 正美
田中 孝美
筒井 真優美
寺岡 征太郎
野末 聖香
濱田 由紀
福井 トシ子
藤田 淳子
本田 彰子
三浦 英恵
森 千鶴
森 真喜子
矢ヶ崎 香
矢富 有見子

【甲信越】

浅野 美礼
有森 直子
内山 美枝子
小林 康江
坂井 さゆり
下里 誠二
竹内 幸江
谷口 珠実
中込 さと子
八尋 道子
山崎 章恵
渡辺 みどり

【北陸】

稲垣 美智子
大江 真琴
大乗 麻由美
表 志津子
加藤 真由美
川島 和代
紺家 千津子
多崎 恵子
田中 浩二
牧野 智恵
四谷 淳子
【東海】
秋山 智弥
浅野 みどり

安藤 詳子
市江 和子
宇城 令
大石 ふみ子
大島 千佳
大島 弓子
大津 廣子
岡田 摩理
片岡 純
片岡 三佳
片山 はるみ
鎌倉 やよい
木戸 芳史
小松 万喜子
坂本 真理子
佐藤 一樹
佐藤 直美
篠崎 恵美子
白尾 久美子
白鳥 さつき
高植 幸子
玉田 章
辻川 真弓
新家 一輝
野口 眞弓
服部 淳子
原沢 優子
藤井 徹也
藤野 あゆみ
操 華子
箕浦 哲嗣
百瀬 由美子
山田 聡子
脇坂 浩
渡井 いずみ
渡邊 順子
【近畿A】
青山 ヒフミ
赤澤 千春
東 ますみ
荒尾 晴恵
池田 清子
池西 悦子
井上 智子
ウィリアムソ
ン 彰子
上野 昌江

内 正子
宇都宮 明美
大野 かおり
大野 ゆう子
勝原 裕美子
加藤 令子
神崎 初美
北村 愛子
久米 弥寿子
グライナー 智
恵子
河野 あゆみ
小西 美和子
近藤 麻理
坂下 玲子
鈴木 志津枝
瀬戸 奈津子
高橋 弘枝
高見沢 恵美子
田中 京子
玉木 敦子
都筑 千景
二宮 啓子
林 千冬
武用 百子
細田 泰子
前川 幸子
宮脇 郁子
森 菊子
安酸 史子
山川 みやえ
山崎 あけみ
山本 あい子
【近畿B】
吾妻 知美
荒川 千登世
糸島 陽子
伊波 早苗
上野 栄一
荻田 美穂子
片山 由加里
黒江 ゆり子
竹之内 沙弥香
田村 恵子
當日 雅代
奈良間 美保
任 和子

野島 敬祐	木下 由美子
本田 可奈子	倉岡 有美子
光木 幸子	グレッジ 美鈴
毛利 貴子	黒田 裕美
吉岡 さおり	末次 典恵
【中国・四国】	竹熊 千晶
吾郷 美奈恵	田中 美智子
畦地 博子	谷口 初美
井伊 久美子	藤内 美保
池添 志乃	中尾 久子
石橋 照子	野間口 千香穂
市原 多香子	橋口 暢子
伊東 美佐江	鳩野 洋子
今井 多樹子	花田 妙子
岩佐 幸恵	濱田 裕子
大川 宣容	平野 かよ子
大平 光子	藤野 成美
岡田 淳子	藤野 ユリ子
折山 早苗	増満 誠
國方 弘子	益守 かづき
久保田 聰美	三重野 英子
黒田 寿美恵	三橋 睦子
佐伯 由香	宮園 真美
陶山 啓子	宮林 郁子
高瀬 美由紀	村田 節子
田中 愛子	分島 るり子
田中 マキ子	
谷垣 静子	
田村 由美	
永井 眞由美	
中野 綾美	
名越 恵美	
野嶋 佐由美	
原 祥子	
百田 武司	
深井 喜代子	
深田 美香	
松本 啓子	
森下 安子	
森本 美智子	
山田 覚	
【九州・沖縄】	
穴井 めぐみ	
飯野 英親	
江藤 宏美	
尾形 由起子	
金岡 麻希	
神里 みどり	

（以上、340名
地区別
五十音順）

(2024年4月1日現在)

公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

(2023年4月1日～2024年3月31日)

2023年度第1回理事会

日時：2023年5月19日（金）13：00～15：00

場所：オンライン開催 日本看護科学学会事務所

(東京都千代田区神田須田町1-5-14 デイアモンドビル6階)

出席者：理事15名、監事2名、第43回学術集会会長、選挙管理委員会委員長 ※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第43回日本看護科学学会学術集会（JANS43）の準備状況
2. 選挙報告
3. 総務会からの提案・報告
4. 2023年6月定時社員総会の議案の承認と進行の確認
5. 各委員会からの報告および審議事項と予算執行状況
 - 1) 和文誌編集委員会
 - 2) 英文誌編集委員会
 - 3) 表彰論文選考委員会
 - 4) 研究・学術推進委員会
 - 5) 看護ケア開発・標準化委員会
 - 6) 若手研究者活動推進委員会
 - 7) 国際活動推進委員会
 - 8) 看護学学術用語検討委員会
 - 9) 社会貢献委員会
 - 10) 広報委員会
 - 11) 看護倫理検討委員会
 - 12) 利益相反委員会
 - 13) 研究倫理審査委員会
 - 14) 災害看護支援委員会
 - 15) 若手研究者助成選考委員会
 - 16) 会則等委員会
 - 17) COVID-19看護研究等対策委員会
 - 18) 研究助成選考委員会
 - 19) 総務委員会
 - 20) 他団体との連携について

- ① 日本看護系学会協議会
 - ② 看護系学会等社会保険連合（看保連）
 - ③ 日本学術会議
 - ④ その他の団体
6. 入会希望者の承認
 7. その他

2023 年度第 2 回理事会

日 時：2023 年 6 月 18 日（日）10：00～11：30

場 所：AP 東京八重洲 11 階 Room O （〒104-0031 東京都中央区京橋 1-10-7 KPP 八重洲ビル）

出席者：理事 12 名、監事 2 名

〈審議事項〉

1. 第 43 回日本看護科学学会学術集会（JANS43）の準備状況
2. 第 44 回日本看護科学学会学術集会（JANS44）企画委員名簿の提出
3. 総務会から 2021-2022 年度活動・評価報告書について
4. 2023 年 6 月定時社員総会の議案と進行分担表の確認
5. 委員会からの報告および審議事項 ※報告または審議のある委員会のみ
6. 入会希望者の承認
7. その他

2023 年度臨時理事会

日 時：2023 年 6 月 18 日（日）15：30～16：00

場 所：AP 東京八重洲 11 階 Room O （〒104-0031 東京都中央区京橋 1-10-7 KPP 八重洲ビル）

出席者：理事 13 名、監事 1 名

〈審議事項〉

1. 理事長（代表理事）、副理事長の承認

2023 年度臨時理事会

日 時：2023 年 7 月 10 日（月）13：00～14:45

場 所：オンライン開催 日本看護科学学会事務所

（東京都千代田区神田須田町 1-5-14 デイアモンドビル 6 階）

出席者：理事 12 名、監事 2 名 ※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 学術集会について

2. 今期理事会方針について
3. 会務分掌および委員の承認
4. 2023年度各委員会予算・執行状況
5. 各委員会からの報告および審議事項 ※報告または審議のある委員会のみ
6. その他

2023年度第3回理事会

日時：2023年9月5日（火）13：00～15：15

場所：オンライン開催 日本看護科学学会事務所

（東京都千代田区神田須田町1-5-14 デイアモンドビル6階）

出席者：理事15名、監事2名、第43回学術集会会長（代理）、第44回学術集会会長

※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第43回日本看護科学学会学術集会（JANS43）の準備状況
2. 第44回日本看護科学学会学術集会（JANS44）の準備状況
3. 総務会からの提案・報告
4. 2023年12月社員総会と第43回学会総会について
5. 会計報告（各委員会予算執行状況）
6. 各委員会からの報告および審議事項
7. 入会希望者の承認
8. その他

2023年度第4回理事会

日時：2023年10月26日（木）13：00～16：03

場所：オンライン開催 日本看護科学学会事務所

（東京都千代田区神田須田町1-5-14 デイアモンドビル6階）

出席者：理事13名、監事2名、第43回学術集会会長、第44回学術集会会長

※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第43回日本看護科学学会学術集会（JANS43）の準備状況
2. 第44回日本看護科学学会学術集会（JANS44）の準備状況
3. 総務会からの提案・報告
4. 2023年12月社員総会の議案の承認
5. 会計報告（2023年度各委員会予算執行率・予算執行状況）

6. 各委員会からの報告および審議事項
7. 入会希望者の承認

2023年度第5回理事会

日 時：2023年12月8日（金）14：00～16：00

場 所：海峡メッセ下関（〒750-0018 山口県下関市豊前田町3丁目3-1）

出席者：理事13名、監事2名

〈審議事項〉

1. 総務会からの提案について
2. 2023年12月社員総会の資料と進行の確認
3. 第43回学会総会の資料と進行の確認
4. 各委員会からの報告および審議事項
5. 入会希望者の承認
6. その他

2023年度第6回理事会

日 時：2024年2月15日（木）13：00～15：34

場 所：オンライン開催 日本看護科学学会事務所

（東京都千代田区神田須田町1-5-14 デイアモンドビル6階）

出席者：理事14名、監事2名、第43回学術集会会長、第44回学術集会会長 ※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第43回日本看護科学学会学術集会（JANS43）報告
2. 第44回日本看護科学学会学術集会（JANS44）の準備状況
3. 総務会からの提案・報告
4. 入会希望者の承認
5. 会計報告（2023年度決算見込みと会費配分率および予算執行状況）
6. 各委員会からの報告および審議事項
7. 2024年6月定時社員総会の開催について
8. その他

公益社団法人日本看護科学学会 社員総会報告

(2023年4月1日～2024年3月31日)

2023年6月定時社員総会

日時 2023年6月18日(日) 13:00～14:50

場所 AP 東京八重洲

〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目10番7号 KPP 八重洲ビル 11階
Tel. 03-6228-8109

総社員数: 340名

出席社員数: 299名(会場85名、委任状214名)

- I. 開会
- II. 理事長挨拶
- III. 議長指名および議事録署名人の承認
- IV. 報告事項
 1. 理事会および社員総会報告
 2. 総務報告
 3. 2022年度事業報告
 - (1) 第42回日本看護科学学会学術集会開催
 - (2) 第43回・第44回日本看護科学学会学術集会準備
 - (3) 和文誌編集委員会
 - (4) 英文誌編集委員会
 - (5) 表彰論文選考委員会
 - (6) 研究・学術推進委員会
 - (7) 看護ケア開発・標準化委員会
 - (8) 若手研究者活動推進委員会
 - (9) 国際活動推進委員会(世界看護科学学会を含む)
 - (10) 看護学学術用語検討委員会
 - (11) 社会貢献委員会
 - (12) 広報委員会
 - (13) 看護倫理検討委員会
 - (14) 利益相反委員会
 - (15) 研究倫理審査委員会
 - (16) 災害看護支援委員会
 - (17) 若手研究者助成選考委員会
 - (18) 研究助成選考委員会
 - (19) 会則等委員会
 - (20) COVID-19看護研究等対策委員会
 - (21) 総務委員会
 - (22) 他機関との連携活動
 - ① 日本看護系学会協議会(JANA)
 - ② 看護系学会等社会保険連合(看保連)
 - ③ 日本学術会議
 - ④ その他の機関
 - (23) 選挙管理委員会
- V. 審議事項
 - 第1号議案 役員候補者の承認
 - 第2号議案 2022年度決算の承認および会計監査の報告
 - 第3号議案 名誉会員の承認

VI. その他

VII. 閉 会

2023年12月社員総会

日 時 2023年12月8日（金）17：00～18：30

場 所 海峡メッセ下関 海峡ホール（国際貿易ビル9階）

〒750-0018 山口県下関市豊前田町3丁目3-1

Tel. 083-231-5600

総社員数：340名

出席社員数：303名（当日出席56名、委任状239名、議決権行使8名）

I. 開 会

II. 理事長挨拶

III. 第43回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

VI. 審議事項

第1号議案 2024年度事業計画（案）の承認

第2号議案 2024年度予算（案）の承認

第3号議案 第46回学術集会会長の承認

VII. 閉 会

総務報告

1. 会員推移 (2023年4月1日～2024年3月31日)

1) 正会員数増減

①2023年4月1日正会員数

9531名 = 2023年3月31日正会員数10243名 - 2023年度資格喪失者712名
(自主退会435名、会費未納277名)

②2023年度の入会者

846名 = 新規入会754名 + 再入会92名

③2023年度の死亡喪失者 正会員5名

④会員区分の変更

3名 正会員から名誉会員 (下記3) の承認数)

2) 賛助会員増減

なし

3) 名誉会員

承認 3名
物故者 1名 樋口康子先生

4) 2024年3月31日現在 会員数

正会員	10,369	※①正会員数+②入・再入会数-③正会員死亡喪失者数-④会員区分変更数
名誉会員	21	
賛助会員	4	
会員総数	10,394	

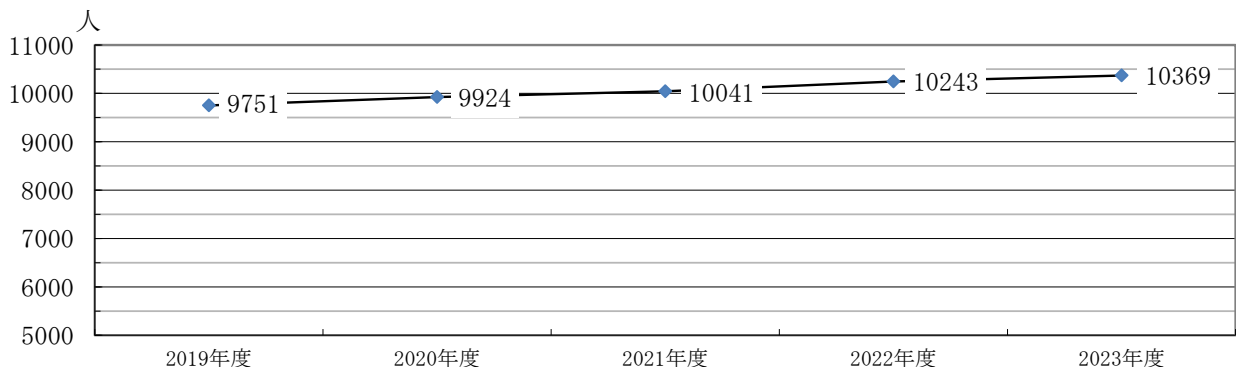
2. 地区別正会員数 (2024年4月1日 会員数9,694名 ←10,369名*1-675名*2*3)

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数		
北海道	北海道	383	北陸	富山	89	九州・沖縄	福岡	466		
				石川	167		佐賀	56		
東北	青森	121	東海	福井	66		長崎	67		
				岩手	78		熊本	80		
				宮城	169		大分	51		
				秋田	65		宮崎	71		
				山形	51		鹿児島	58		
				福島	57		沖縄	83		
関東A	茨城	146	近畿A	大阪	656		宛先不明者		25	
			近畿B	兵庫	541		合計		9,694	
				滋賀	108					
				京都	266					
関東B	栃木	118	537	奈良	99					
				埼玉	359	和歌山	64			
関東B	千葉	554	中国・四国	鳥取	42	*1 2024/3/31会員数 *2 新年度資格喪失者 *3 自主退会407会費未納268				
				神奈川	579			島根	54	
東京A	※1	670						岡山	170	
				東京B	※2			775	広島	268
甲信越	新潟	112							山口	78
				長野	139			徳島	57	
				山梨	77			香川	64	
328	山梨	77		958	愛媛			100		
					高知			125		

※1 千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、島しょ、海外

※2 渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域

3. 正会員数の推移 (年度別)



公益社団法人日本看護科学学会 2023-2024年度委員会名簿

※所属機関名は2024年4月25日現在の会員登録データに基づいています

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
和文誌編集	委員長/編集長 編集長 編集長	井上智子	大阪大学大学院
		勝山貴美子	横浜市立大学
		瀬戸奈津子	関西医科大学
		青柳道子	札幌医科大学
		安齋由貴子	清泉女学院大学
		飯岡由紀子	埼玉県立大学
		市原多香子	香川大学
		大澤真奈美	群馬県立県民健康科学大学
		大山裕美子	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
		荻田美穂子	滋賀医科大学
		沖中由美	岡山大学
		小澤未緒	広島大学大学院
		倉岡有美子	令和健康科学大学
		佐藤伊織	東京大学大学院
		佐藤真由美	弘前大学大学院
		島明子	名古屋大学大学院
		清水佐知子	武庫川女子大学
		鈴木小百合	順天堂大学
		園部真美	東京都立大学
		鶴若麻理	聖路加国際大学
		新家一輝	名古屋大学大学院
		野島敬祐	京都橘大学
		樋上容子	大阪医科薬科大学
		檜山明子	札幌市立大学
		藤野成美	佐賀大学
		星野純子	名古屋大学大学院
		松本啓子	香川大学
		宮本有紀	東京大学大学院
		森本悦子	甲南女子大学
		八尋道子	佐久大学
山崎あけみ	大阪大学大学院		
吉田美香子	東北大学		
植木慎悟	九州大学大学院		
英文誌編集	委員長 編集長	グレッジ美鈴	名桜大学大学院
		William L. Holzemer	Rutgers, The State University of New Jersey, School of Nursing
		朝倉京子	東北大学大学院
		石原逸子	神戸市看護大学
		上田佳世	奈良県立医科大学
		江藤宏美	長崎大学
		加澤佳奈	岡山大学
		加藤憲司	神戸女子大学
		グライナー智恵子	神戸大学大学院
		コリー紀代	北海道大学大学院
		近藤暁子	東京医科歯科大学
		齋藤あや	新潟潟大学
		佐藤奈保	千葉大学大学院
		副島堯史	神戸大学大学院
		田中準一	長崎大学
		谷口麻希	東京医科歯科大学
		千葉由美	横浜市立大学
		千葉理恵	京都大学大学院
		月野木ルミ	東京医科歯科大学
		角田秋	東京有明医療大学
		寺本千恵	広島大学大学院
		野口真弓	日本赤十字豊田看護大学
		深井喜代子	東京慈恵会医科大学大学院
		藤田君支	九州大学大学院
		堀内成子	聖路加国際大学
		真嶋朋子	千葉大学大学院
		操華子	静岡県立大学
		吉永尚紀	宮崎大学
		朝澤恭子	東京医療保健大学

委員会	役職・担当	氏名	所属機関	名		
表彰論文選考	委員長	有森直子	新潟大学	学		
		荒尾晴恵	大阪大学	大学院		
		市江和子	聖隷クリストファー大学	学		
		井上智子	大阪大学	大学院		
		金子さゆり	宮城大学	学		
		グレッグ美鈴	名桜大学	大学院		
		黒田寿美恵	県立広島大学	学		
		佐居由美	聖路加国際大学	学		
		田中美智子	宮崎県立看護大学	学		
		谷口麻希	東京医科歯科大学	学		
		長谷川真澄	札幌医科大学	学		
		林直子	聖路加国際大学	学		
		福島裕子	岩手県立大学	学		
		堀越政孝	群馬パース大学	学		
涌水理恵	筑波大学	大学院				
研究・学術推進	委員長	野間口千香穂	宮崎大学	学		
		吉永尚紀	宮崎大学	学		
		大江真琴	金沢大学	学		
		落合亮太	筑波大学	学		
		加澤佳奈	岡山大学	学		
		グライナー智恵子	神戸大学	大学院		
		小玉淑巨	北里大学	学		
		友滝愛	東京大学	学		
		深堀浩樹	慶應義塾大学	学		
		本田順子	兵庫県立大学	学		
		吉岡京子	東京大学	大学院		
		涌水理恵	筑波大学	大学院		
		新田汐里	宮崎大学	学		
		看護ケア開発 標準化	委員長 副委員長	佐藤和佳子	山形大学	学
山川みやえ	大阪大学			大学院		
阿部桃子	東京医療保健大学			学		
大田えりか	聖路加国際大学			大学院		
鈴木みゆき	兵庫医科大学			学		
藤田あけみ	弘前大学			大学院		
渡邊千登世	埼玉県立大学			学		
内海桃絵	京都府立医科大学			学		
若手研究者活動推進	委員長			仲上豪二郎	東京大学	大学院
				天野薫	人間環境大学	学
				大城真理子	沖縄県立看護大学	学
				加澤佳奈	岡山大学	学
				菅野恵美	東北大学	学
				木戸芳史	浜松医科大学	学
		田上博喜	宮崎大学	学		
		友滝愛	東京大学	学		
		米澤かおり	東京大学	大学院		
		麦田裕子	東京大学	大学院		
		国際活動推進	委員長	池田真理	東京大学	大学院
				金井PAK雅子	関東学院大学	学
				グレッグ美鈴	名桜大学	大学院
				高井ゆかり	群馬県立県民健康科学大学院	学
竹之内沙弥香	京都大学			大学院		
中村美鈴	名古屋市立大学			大学院		
成瀬和子	東京医科大学			学		
操華子	静岡県立大学			学		
柳澤理子	愛知県立大学			学		
宮本有紀	東京大学			大学院		
看護学学術用語検討	委員長			大久保暢子	聖路加国際大学	学
				大田えりか	聖路加国際大学	大学院
				大村佳代子	兵庫県立大学	学
				住谷ゆかり	日本赤十字看護大学	学
		田中晴佳	神戸市看護大学	学		
		藤田佐和	高知県立大学	学		
		本庄恵子	日本赤十字看護大学	学		
		横田慎一郎	東京大学	学		
会	計	蜂ヶ崎令子	東邦大学	学		

委員会	役職・担当	氏名	所属機関	名
社会貢献	委員長	大久保暢子	聖路加国際大学	
		角濱春美	青森県立保健大学	
		木下真吾	日本赤十字広島看護大学	
		高橋恵子	埼玉県立大学	
		寺本千恵	広島大学大学院	
		松石雄二郎	聖路加国際大学	
		松元悦子	山口県立大学	
		水戸優子	神奈川県立保健福祉大学	
		横野知江	新潟大学	
	荒尾博美	熊本保健科学大学		
合計		吉田みつ子	日本赤十字看護大学	
広報	委員長	西村ユミ	東京都立大学	
		宇都宮明美	関西医科大学	
		神崎初美	兵庫医科大学	
		塩飽仁	東北大学大学院	
		田中マキ子	山口県立大学	
		法橋尚宏	神戸大学	
		細野知子	日本赤十字看護大学	
	前田ひとみ	熊本大学		
合計		福井里美	東京都立大学	
看護倫理検討	委員長	鎌倉やよい	元日本赤十字豊田看護大学	
		吾妻知美	大阪成蹊大学	
		高橋梢子	島根県立大学	
		鶴若麻理	聖路加国際大学	
		飛田伊都子	大阪医科薬科大学	
	名越恵美	岡山県立大学		
合計		近藤絵美	日本赤十字豊田看護大学	
利益相反	委員長	山本則子	東京大学大学院	
		鎌倉やよい	元日本赤十字豊田看護大学	
		國清恭子	群馬大学大学院	
		角川由香	東京大学	
		藤田あけみ	弘前大学大学院	
	沼田華子	東京大学大学院		
外部委員		友納理緒	土肥法律事務所	
研究倫理審査	委員長	山本則子	東京大学大学院	
		五十嵐歩	東京大学	
	外部委員	大澤真奈美	群馬県立県民健康科学大学	
		角川由香	東京大学	
		竹内幸江	長野県看護大学	
		隈本邦彦	江戸川大学院	
		戸塚実	長野県立こども病院	
		友納理緒	土肥法律事務所	
災害看護支援	委員長	西村ユミ	東京都立大学	
		牛久保美津子	群馬大学大学院	
		大野かおり	兵庫県立大学	
		神原咲子	神戸市看護大学	
		近藤麻理	関西医科大学	
	三浦英恵	日本赤十字看護大学		
合計		國江慶子	東京都立大学大学院	
若手助成選考	委員長	池田真理	東京大学大学院	
		浅野みどり	修文大学	
		グレッグ美鈴	名桜大学大学院	
		小林京子	聖路加国際大学大学院	
		新福洋子	広島大学大学院	
		仲上豪二郎	東京大学大学院	
	宮本千津子	東京医療保健大学		
外部委員		丹野義彦	日本心理学会	
研究助成選考	委員長	仲上豪二郎	東京大学大学院	
		清水準一	東京医療保健大学	
		田口敦子	慶應義塾大学	
		西村ユミ	東京都立大学	
		法橋尚宏	神戸大学	
		横田慎一郎	東京大学	
		吉永尚紀	宮崎大学	
	四谷淳子	福井大学		
合計		麦田裕子	東京大学大学院	
外部委員		丹野義彦	日本心理学会	

委員会	役職・担当	氏 名	所 属 機 関 名
会則等	委 員 長	鎌倉 やよい	元日本赤十字豊田看護大学
		東 ま す み	神戸女子大学
		池西 悦子	大阪医科薬科大学
	会 員 計	西村 ユミ	東京都立大学
C O V I D 1 9 看護研究等対策	委 員 長	石井 邦子	千葉県立保健医療大学
		吉永 尚紀	宮崎大学
		池田 真理	東京大学大学院
		加澤 佳奈	岡山大学
		新福 洋子	広島大学大学院
		須釜 淳子	藤田医科大学
		田中 マキ子	山口県立大学
		友滝 愛	東京大学
		仲上 豪二朗	東京大学大学院
総務	委 員 長	深堀 浩樹	慶應義塾大学
		横田 慎一郎	東京大学
		田口 敦子	慶應義塾大学
選挙管理	委 員 長	鷺見 尚己	北海道大学大学院
		仲上 豪二朗	東京大学大学院
		武村 雪絵	東京大学医学部附属病院
		香春 知永	武蔵野大学
		河野 あゆみ	大阪公立大学
佐藤 由美	群馬大学		
長江 弘子	亀田医療大学		

公益社団法人 日本看護科学学会 2023 年度事業報告

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

(1) 第 43 回日本看護科学学会学術集会開催

- ・第 43 回日本看護科学学会学術集会 (JANS43) を田中マキ子学術集会会長のもと、2023 年 12 月 9 日から 12 月 10 日の 2 日間、海峡メッセ下関他 (山口県下関市) にて開催した。メインテーマは「未来を拓く看護のサイエンス&アーツ：伝統と革新の融合」、参加総数は 3,644 名であった。
- ・最終演題数 1,031 題 (口演 346 題、示説 668 題、English Session 17 題、交流集会 71 件)。
- ・市民公開講座「文化財への科学的接近」演者：馬場 良治氏 (日本画家) を開催した。参加者数：71 名であった。
- ・会長講演、市民公開講座など、一部の内容について開催後オンデマンド配信を行った。

(2) 第 44 回・第 45 回日本看護科学学会学術集会準備

- ・第 44 回日本看護科学学会学術集会 (JANS44) を前田ひとみ学術集会会長のもと、2024 年 12 月 7 日・8 日の 2 日間、熊本城ホール他にて開催予定である。メインテーマは「格差社会への看護科学の挑戦～想像を超えた未来を創造する～」である。
- ・第 45 回日本看護科学学会学術集会 (JANS45) を有森直子学術集会会長のもと、2025 年 12 月 6 日・7 日の 2 日間、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンターにて開催予定である。

(3) 和文誌編集委員会 (井上智子理事)

学会誌 (日本看護科学学会誌) の発行、投稿の促進、投稿原稿の受付および査読の依頼、採否の決定などを実施。

① 日本看護科学学会誌 (電子ジャーナル) の発刊

第 43 巻をオンラインで発刊した。

- ・2023 年 1 月～12 月の投稿論文数は 291 編で、内 61 編 (21%) は迅速査読を行った。
- ・第 43 巻 (2023 年 1 月～12 月) の掲載論文数は、総説 11 編、原著論文 68 編、資料 15 編、その他 3 編、計 97 編で、採択率は 33.3%であった。
- ・論文公開時には会員に向け一斉メールを配信し掲載を周知した。

② 更なる円滑な投稿に向けての取り組み

投稿規程 (2022 年 12 月 1 日改定) および査読ガイドライン (2022 年 12 月 1 日改定) の適正運用に向けて協議した。

- ・投稿論文チェックリスト、和文誌投稿論文 Q&A への追記を予定している。

委員会開催：第 1 回 (2023 年 8 月 24 日) オンライン

第 2 回 (2024 年 3 月 25 日～3 月 31 日) Web 方式による意見提出

(4) 英文誌編集委員会（グレッグ美鈴理事）

英文誌（Japan Journal of Nursing Science “JJNS”：2004年創刊、2014年からはonline journal）を年4回発行実施。JJNSセミナーを開催。

① Japan Journal of Nursing Science の発行

- ・ Vol.20 をオンラインで発刊した。
- ・ 2023年1月～12月の投稿論文数は、677編で（2022年は672編）、採択率は7.7%（日本人：24.0%）であった。
- ・ 論文掲載時には、会員向け一斉メールを配信した。
- ・ 2022年のImpact Factorは、1.7であった（2023年6月発表による）。

② Fast Track Review（迅速査読）の実施

2023年の迅速査読は、44編で（2020年19編、2021年30編、2022年37編）、採択率は34.1%であった。

③ 発刊20周年記念事業

JJNSの創刊20周年にあたり、これまでの活動の記念と今後の発展を意図して、JJNSバッジを制作した。第42回・第43回学術集會はじめ、EAFONS 2023・2024やその他、関連行事の際に配布した。

④ JJNS セミナーの開催

- ・ JJNS セミナー：Improving Your Success at Publishing in English 2023：Social media to promote author's own paper をオンラインで開催した（2023年12月13日～2024年1月31日）。受講者数は、361名（会員360名・非会員1名）であった。

⑤ 第43回学術集會にて交流集會「現在／未来の投稿者・査読者のための英語論文査読」を開催した（2023年12月9日、15：20～16：20 海峡メッセ下関4F イベントホール）。参加者は25名であった。

⑥ 第43回学術集會にて英文誌コンサルテーションを開催した（2023年12月9日、10日、10：00～12：00 海峡メッセ下関4F イベントホール）。参加者は15名であった。

委員会開催：2回（2023年8月2日：オンライン、2024年3月10日：ハイブリッド）

情報交換会：1回（2023年12月9日：対面）

(5) 表彰論文選考委員会（有森直子理事）

日本看護科学学会が発行する和文誌と英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、学会として表彰論文の推薦を実施。学術集會演題表彰の実施。また、他組織からの表彰に該当する候補者の推薦も行う。

① 表彰論文の選考

- 日本看護科学学会が発行する和文誌、および英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、表彰論文の推薦を実施した。
- ・ 表彰論文選考手順により、和文誌、英文誌の各編集委員会より審査対象論文18編（和文8編・英文10編）の選定を受け、表彰論文選考委員会で優秀賞・奨励賞候補論文6編（和文3編 英文3編）を審査リストとして作成した。
- ・ 2023年9月5日に、全代議員、役員342名にメールにて採点を依頼した。
- ・ 10月4日までに返信された218件について評価点の集計を行った。回収率63.7%(218/342)。集計結

果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞 2 編、奨励賞 1 編を決定し、理事会に報告し承認を得た。

【優秀賞】

- ◆ Effects of e-learning on the support of midwives and nurses to perinatal women suffering from intimate partner violence: A randomized controlled trial
Naoko Maruyama 【45 歳未満】、Yaeko Kataoka, Shigeko Horiuchi
JJNS, 2022, Volume 19, Issue2 (e12464)
- ◆ Associations between psychiatric home-visit nursing staff's exposure to violence and conditions of visit to community-living individuals with mental illness
Hirokazu Fujimoto, Chieko Greiner, Tsuyoshi Mukaihata, Takeshi Hashimoto(非会員)※
JJNS, 2022, Volume 19, Issue4 (e12485)

【奨励賞】

- ◆ Association between temporary discharge from the inpatient palliative care unit and achievement of good death in end-of-life cancer patients: A nationwide survey of bereaved family members
Sakiko Aso 【45 歳未満】、Naoko Hayashi, Go Sekimoto(非会員)※、Naoko Nakayama, Keiko Tamura, Chieko Yamamoto(非会員)※、Maho Aoyama, Tatsuya Morita(非会員)※、Yoshiyuki Kizawa(非会員)※、Satoru Tsuneto(非会員)※、Yasuo Shima(非会員)※、Mitsunori Miyashita
JJNS, 2022, Volume 19, Issue3 (e12474)

※本賞は会員のみ授与される

② 他組織からの表彰候補者の推薦

日本学術振興会賞（第 21 回）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、1 名を推薦した。

③ 学術集会演題表彰の実施

第 43 回学術集会において演題表彰を実施した。

賞は「優秀演題口頭発表賞」「若手優秀演題口頭発表賞」「優秀演題ポスター発表賞」「優秀演題抄録賞」とし、選考は 2 段階で行った。第 1 段階では、演題抄録を登録する際に使用するシステムを利用して、査読者 2 名以上による採点を行い、各賞上位およそ 10 演題を選考した。第 2 段階として、「優秀演題抄録賞」は、表彰論文選考委員会で最終選考を行い、最優秀抄録賞を決定した（10 月）。また「優秀演題口頭発表賞」「若手優秀演題口頭発表賞」「優秀演題ポスター発表賞」の 3 賞については、学術集会当日の発表を表彰論文選考委員会で採点し最終選考を行い、最優秀賞を決定した。表彰については、学術集会 2 日目に時間と場所を設定し、受賞者に賞状と記念品を渡し、理事長および表彰論文選考委員会委員長との写真撮影を行う対応とした。写真は後日学会 HP で公開した。

【最優秀演題口頭発表賞】

- ◆ 訪問看護師向け在宅看取り教育プログラム（初任者）の無作為化比較試験による評価
濱谷 雅子、平原 優美、小沼 絵理、沼田 華子、野口 麻衣子、菱田 一恵、岡本 有子
竹森 志穂、新幡 智子、栗田 佳代子、山本 則子
- ◆ 集中治療室の看護師が抱く Moral Distress の様相と対処方略
山内 英樹、上野 恭子

【優秀演題口頭発表賞】 5 演題 ※筆頭者のみ記載

1. 岡田 純子
2. 猪飼 やす子
3. 水野 妙子
4. Kyoko Sudo
5. 関野 靖雄

【若手最優秀演題口頭発表賞】

- ◆ 連日の弱圧清拭がドライスキンを有する高齢患者の皮膚バリア機能回復に及ぼす影響
紺谷 一生、吉田 真由美、渡邊 千亜紀、守田 明美、矢野 理香
- ◆ アミノ酸解析のためのスワブを用いた創傷滲出液採取方法の検討：相対アミノ酸量の変化の評価における有用性
國光 真生、仲上 豪二郎、赤瀬 智子、大江 真琴

【若手優秀演題口頭発表賞】8 演題 ※筆頭者のみ記載

1. 勝久 美月
2. 室谷 寛
3. 山本 義昭
4. 笹脇 ゆふ
5. 塩澤 拓亮
6. 田端 一成
7. 水引 智央
8. 今水流 彩乃

【最優秀演題ポスター発表賞】

- ◆ 成人中年期におけるオーラルフレイルの実態
井本 千代香、丹 佳子
- ◆ 環境整備における利用可能なシソのエキス成分の殺菌効果
森本 美智子、田辺 文憲

【優秀演題ポスター発表賞】8 演題 ※筆頭者のみ記載

1. 酒井 太一
2. 土肥 眞奈
3. 島村 敦子
4. 白井 ひろ子
5. 田原 郁恵
6. 新木 基子
7. 石井 佳代子
8. 服部 真理子

【最優秀演題抄録賞】

- ◆ 精神科救急入院料病棟における退院支援のためのトランジショナルケアプロトコルの 実装と評価
小林 みゆき

【優秀演題抄録賞】10 演題 ※筆頭書のみ記載

1. 瀬戸屋 希
2. 宇治田 さおり
3. 塚本 尚子
4. 佐々木 新介
5. 田中 裕樹
6. 芳我 ちより
7. 榮田 絹代
8. 鈴木 久美
9. 伴 佳子
10. 中村 博文

委員会開催：5 回（2023 年 8 月 4 日、8 月 28 日、10 月 6 日、12 月 9 日、2024 年 1 月 18 日）

2023 年 12 月 9 日以外は、オンライン会議

(6) 研究・学術推進委員会（吉永尚紀理事）

会員の大型研究の推進に関する事業、JANS セミナーの企画・開催、学術集会における委員会企画の交流集会の実施、オンラインジャーナルクラブの実施、その他の研究・学術推進に関する事業を実施した。

① 科学研究費助成事業における大型研究獲得支援プロジェクト

- ・ 2021 年度に採択された涌水理恵氏について、すでに 2022 年度の「基盤研究 (A)」に採択されているが、研究チームの構築支援として、当学会を通して 2023 年 6 月に研究協力者の公募を行い、その後も 3 ヶ月おきにリマインドメールを配信した。
- ・ 2022 年度に採択された土屋雅子氏について、これまで支援を行ってきた前期委員の担当者を中心に研究計画および申請書類についての助言を行った。これに加えて、全国 URA 科研費申請支援機構の添削サービス費用を委員会経費から支出し、2023 年度の「基盤研究 (A)」への申請が完了した。
- ・ 昨年度と同様の内容で今年度も公募・審査を行い、コリー紀代氏と小林京子氏の 2 名を採択し支援を開始した。

② JANS セミナーの企画・開催

- ・第22回JANSセミナー「激動する世界、変化する環境の中で研究者はどのように研究に向き合うか？」をWeb開催した（2023年8月21日～11月20日まで）。受講者数は、771名（会員762名・非会員3名・基礎教育課程学生6名）であった。
- ・セミナー開催期間終了後、公開データを会員マイページの「過去のセミナーアーカイブ」に移し、会員が視聴できるようにした（概ね開催後3年）。
- ・第24回JANSセミナーの企画検討を行った。

③ 第43回学術集会での交流集会の企画

- ・第43回学術集会において交流集会「地域と専門分野を越えて学び合うオンラインジャーナルクラブの活動紹介」を開催した（2023年12月10日海峡メッセ下関8F 804会議室）。

④ オンラインジャーナルクラブ

- ・2024年1月19日にオンラインジャーナルクラブの開催を予定していたが、元日に発生した能登半島地震による被災、災害対応、これらに伴う業務への影響など、会員への多岐にわたる影響に鑑み検討した結果、今年度実施分を中止とし来年度に開催することとした。

委員会開催：3回（2023年8月28日 [オンライン]、12月9日 [ハイブリッド]、2024年2月27日 [オンライン]）

(7) 看護ケア開発・標準化委員会（佐藤和佳子理事・山川みやえ理事）

① 本委員会会務分掌に新規事業（下線部）を追加しHPに公表

（継続事業）

研究活動を推進して若手研究者を育成し、優れた研究成果を国内外に発信していくことを目的に、研究成果のエビデンスに基づき、問題解決に向けた看護技術（看護ケア）を開発・標準化することでNursing Scienceの構築と、臨床や在宅の場で医療を必要とする人々へ還元できる仕組づくりを目指す。そのモデル事業として、Minds診療ガイドライン作成マニュアル2020に準拠した、排泄に関する看護ケアガイドラインを策定し、その標準化を目標とする。

（新規事業）

看護ケアの標準化を促進するために、日本看護系学会協議会（以下、JANA）との連携、看護系の各専門学会等との連携の可能性について検討する。

② 新規スコーピングレビュー実施(a), 2019年度採用看護ケアガイドライン作成継続(b)

- 「尿失禁を有する高齢者の生活習慣（Lifestyle）介入」について、新たにスコーピングレビュー、以下ScRを実施するための計画書を作成し、文献検索を完了した。ScR、図書館情報学の専門家の協力を受け、分析を進めている。
- 「看護ケアのための高齢者排尿促進法（PV）（診療）ガイドライン」（仮）に名称を変更し、作成工程計画と作成組織を更新した。Minds2020に準拠し、ガイドライン作成を継続している。

③ JANA との連携、看護系専門学会との連携可能性の検討

Evidence Based Practice:以下 EBP を促進する活動について、看護系専門学会を対象とする実態調査

の実施について理事会で承認を受け、準備を開始した。

④ 委員会活動内容の公表

2024年度のJANS44の委員会企画として、看護ケア開発・標準化、EBP促進についての情報提供、活動成果の公表に向け、検討を開始した。

委員会開催：5回（2023年9月1日、10月3日、12月10日、2024年1月31日、3月9日）

※12月10日以外、すべてオンライン

(8) 若手研究者活動推進委員会（仲上豪二郎理事）

日本学術会議若手アカデミーをはじめ、国内外の多学問分野の若手研究者と積極的な交流を図る。また、学術集会での交流集会の定例的な企画・運営を通して若手研究者を育成し、将来的な看護学の発展に寄与する。

① 委員会としての活動

- ・ JANS 若手の会ホームページでの情報発信を行った。当委員会の企画について、事前予告に加え、当日の概要に関する事後報告も行った。また、JANS 若手の会ホームページについて、若手研究者活動推進委員会の活動の可視化、若手メーリングリストやイベントの広報、今後の更新のしやすさと汎用性の向上を目的に、ウェブサイトの修正案を作成し、ウェブサイトの改修を行った。今後引き続きウェブサイトを通じて情報を発信する。
- ・ JANS 若手メーリングリストより情報の発信をした。登録者数は2023年10月現在で計951名であり、2023年3月時点の891名より増加傾向である。当委員会企画の事前予告・事後報告ならびに登録メンバーによる研究・研修活動やイベント投稿が行われた。
- ・ 日本学術会議若手アカデミーからの情報の発信をした。

② JANS セミナーの開催

- ・ 第21回JANSセミナー「看護実践力を高めるDXの今とこれから：データ・デジタル技術の戦略的活用ヒントを学ぼう」（オンデマンド配信）を開催した（2023年3月29日～5月31日）。受講者数は989名（会員950名・非会員19名・基礎教育課程学生20名）であった。
- ・ 第23回JANSセミナー「創発的看護学研究のためのリサーチマインド・マネジメント」（オンデマンド配信）の申込み・配信を2024年3月18日から開始した（～5月31日まで開催予定）。

③ エリア検討会開催支援

- ・ JANS 若手の会 エリア・コーディネーターが主体で企画・運営するエリア検討会の開催支援を行った。2023年度に開催されたエリア検討会は以下の7件である。第5回北関東エリア検討会（2023年8月20日開催）、第5回中国・四国エリア検討会（2023年9月2日開催）、第3回東海エリア検討会（2023年9月2日開催）、第3回甲信越・北陸エリア検討会（2023年9月23日開催）、第3回関西エリア検討会（2024年1月27日開催）、第6回中国・四国エリア検討会（2024年3月9日開催）、第6回北関東エリア検討会（2024年3月10日開催）。開催したエリア検討会は、それぞれの開催報告をJANS 若手の会ホームページ上に順次掲載している。

④ エリア・コーディネーター活動の活性化

- ・ エリア・コーディネーター間の交流を促すことを目的に、JANS エリア・コーディネーター用 Slack ワ

ークスペース（2022年3月末開設）を引き続き運営した。エリア間およびエリア内のエリア・コーディネーターの交流の場として活用された。

- ・次期エリア・コーディネーターの募集に関する情報発信と検討が行われた。

⑤ 第43回学術集会での交流集会の企画

第43回学術集会において交流集会「若手研究者がともに拓く未来～論文執筆からアクセプトまでの経験知を共有しよう～」を開催した(2023年12月10日海峡メッセ下関8F 804会議室)

⑥ 他学会とのコラボレーション

- ・看護理工学会主催「次世代委員会 第5回ものづくり体験ワークショップ」8月11日、19日開催を後援した。
- ・第43回学術集会において日本心理学会との合同シンポジウム「個体内比較によるケアエビデンスの創出：シングルケースデザインの挑戦」を開催した(2023年12月10日下関市生涯学習プラザ1F海のホール)。

⑦ 日本学術会議 報告書作成への参画

日本学術会議より発出されたDXに関する報告書作成に参画した。

委員会開催：2回（2023年9月7日オンライン 2023年12月10日対面）

その他、常時 Slack 上でディスカッションを継続している。

(9) 国際活動推進委員会（池田真理理事）

国際学会での優れた日本の研究成果を発信していくことを目的にセミナー・支援策を企画する。また、国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築を目指す。

① 委員会企画 交流集会

第43回学術集会において、交流集会 [From Struggle to Success : 「若手研究者が海外留学するための助成」経験者から学ぶ] を開催した (2023年12月10日14:20～15:20 海峡メッセ下関8F 804会議室)。

② 異文化看護データベース

異文化看護データベースの更新について以前より検討していたが、全国の看護職他に利用されていることや、毎月平均300回のアクセスがあることが明らかになったため、当初の目的に合わせて、随時積極的に更新していく方針とした。執筆要領を作成し、2022年8月に会員を対象に執筆者の募集を呼び掛けたところ、24件の応募があり、13か国（ハンガリー、英国 [グレートブリテン及び北アイルランド連合王国]、オーストラリア連邦、モロッコ王国、エルサルバドル共和国、インドネシア共和国、マレーシア、シンガポール共和国、インド、ネパール、フィリピン共和国、中華人民共和国、バングラデシュ人民共和国）と、イスラム教についての情報を更新した。

10月11日の委員会では、2024年の5月に、更新/新規作成する国を決定し、7月頃をめどに執筆者の募集を開始するマニュアルを定めた。

③ 世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science : WANS）への協力支援

- ・2023年11月21日にWANS理事会が行われ、第8回世界看護科学学会学術集会（WANS学術集会）はインドネシア共和国で2024年8月21～22日に開催予定であることが発表された。Indonesian

National Nurses Association (INNA)の主催で、International Conference of INNA と同時開催の予定である。

- ・ 2023年12月に選挙が行われ、The Nurses' Association of Thailand の Dr. Tassana BOONTONG が再選された。任期は2年となる。
- ・ 8月に開催される WANS 学術集会の運営委員会から、プログラムの演題査読者の推薦依頼があり、メール審議において、委員会より、操華子氏およびグレッグ美鈴氏を推薦した。

委員会開催：4回（2023年5月15日、8月24日、10月11日、3月29日：メール会議）オンライン

(10) 看護学学術用語検討委員会（大久保暢子理事）

看護学が扱う専門用語（看護学学術用語）の概念的統一を図り、これまでに作成した用語を維持管理・普及を行うシステム構築の検討を実施。また新たな用語を検討・追加するための以下の委員会活動を行った。

① 看護学学術用語の電子システムの普及促進

- ・ 2022年度に立ち上げた看護学学術用語の検索サイト JANSpedia (<https://scientific-nursing-terminology.org/>) の会員への一層の周知、ならびに国内外での活用を広めるために、会員への情報発信、フライヤーでの一般社団法人日本看護系学会協議会、一般社団法人日本看護系大学協議会への情報発信、用語の英語翻訳を進めた。

② JANSpedia への新用語追加促進のための常時募集システムの構築

- ・ 既存の100の用語以外に、新用語を常時追加できるよう、新用語の常時募集要項、常時の審査基準等のシステムを構築した。
- ・ 新用語の常時募集に関する広報を紙面ポスターならびに会員メーリングリストにて行い、募集を行った。
- ・ 2023年度は、新用語として5つの用語が会員から申請され、4つの用語を承認・掲載された。

③ 看護学学術用語追加の審査システムと JANSpedia サイトの操作の両マニュアルの作成

- ・ 用語追加の審査基準や審査プロセスの統一化ならびに次期委員会への適切な引継ぎのためにマニュアル作成を進行中である。
- ・ JANSpedia の電子サイトについても統一した操作を明確にするため、次期委員会への適切な引継ぎのためにマニュアルを作成中である。

④ JANSpedia の実装評価の検討

- ・ サイトの閲覧状況、用語の検索状況などを分析し、JANSpedia の持続可能性や有用性、掲載されている各看護学術用語の活用状況をデータ収集し、実装の状況を分析中である。

委員会開催：5回（2023年5月9日、6月1日、7月6日、11月9日、2024年1月24日）オンラインにて開催し、メール審議を3回程度開催した。

(11) 社会貢献委員会（大久保暢子理事）

一般市民を対象に看護学を通じた社会への貢献やその方策の研究、普及を目的に、学術集会開催時に「市

民公開講座」や次世代の看護学研究者育成事業などを実施。

① 第 43 回学術集会において市民公開講座を開催

- ・第 43 回学術集会で市民公開講座「文化財への科学的接近」を開催した。

日時：2023 年 12 月 10 日 14：40～15：40

会場：下関市生涯学習プラザ 1F 海のホール

講師：日本画家 選定保存技術保持者 馬場良治先生

参加者数：71 名、満足度 8.09 点（10 点満点）

② 次世代の看護学研究者発掘・育成事業の展開

- ・次世代の看護学研究者発掘・育成事業として、中高生を対象とした「次世代研究者発掘育成プログラム」を提案し検討ならびに実施を行った。
- ・「次世代研究者発掘育成プログラム」は、「人の幸せにつながる科学を探求しませんかー看護学への招待ー」をメインテーマとして、「次世代研究者の発掘育成プロジェクト広報サイト (<https://jans.jp/>) を立ち上げた。サイト内では、中高生が視聴する「未来の看護研究者となる皆さんに伝えるストーリー」として看護学研究者のドキュメンタリー動画を作成・掲載し、さらに、「看護学の研究者として生きる」のサイトページでは、4 名の若手看護学研究者のインタビュー記事を掲載した。また他サイトページでは国内外の看護学研究者の状況を情報発信した。
- ・全国主要の中高生が通う進学学習塾を対象に次世代研究者発掘育成プログラムに関するフライヤーを郵送し、学習塾での展示依頼を行った。
- ・上記のドキュメンタリー動画は YouTube よりフルバージョン (<https://www.youtube.com/watch?v=78pjvsQpGMg&t=22s>) とショートバージョン (<https://www.youtube.com/watch?v=INoJ6ew0ark>) として公開、広報サイトは、Instagram ヴァージョンでも情報公開を行った。
- ・上記サイトならびに動画を視聴した中高生を対象に 3 月下旬にインスタライブにて、看護学研究者と中高生の交流形式の会を開催した。

③ 次世代研究者発掘育成プログラムの実装評価の検討

- ・実施している本プログラムの実装評価を行うために、現在、評価項目と分析方法を委員会内で検討中である。

④ 市民公開講座のアーカイブ化を行い、会員への情報提供

第 43 回学術集会市民公開講座をアーカイブとして会員マイページに掲載し会員への情報提供を可能にした。

委員会開催：5 回（2023 年 5 月 12 日、5 月 29 日、7 月 26 日、2024 年 1 月 18 日、3 月 5 日）オンラインにて開催し、そのほか業者との打ち合わせを月 1 回、班会議を 5 回程度開催した。

(12) 広報委員会（西村ユミ副理事長）

日本看護科学学会の広報活動を担当、委員会成果物の公表、学術集会の周知（プレスリリース等の作成・配布、当日の記録の保存）、学会ウェブサイトの定期的な更新や維持・管理等を実施。

① ウェブサイトの維持・管理・改善

本会公式ウェブサイトの維持・管理・改善を事務所と協力のうえ定期的に行った。

公式ウェブサイトの再構築の必要性について検討した。

② 学術集会等の広報活動

第 43 回学術集会のプレスリリースの作成・配布、市民フォーラム（市民公開講座）の広報活動を行った。

第 43 回学術集会の様子を記録として本会ウェブサイトに掲載した。

③ 委員会成果物の公表

JANS 研究論文を実践へトランスレーションする企画「看護研究の玉手箱」において、2023 年度表彰論文の追加掲載を行った。

④ 広報用マスコットキャラクターの活用

学会マスコットキャラクター（ジャンとスウ）を第 43 回学術集会の広報に活用した。

⑤ デジタル広報の推進

Facebook ページ（会員が交流できる会員フォーラム）を活用し会員と交流した。

⑥ 日本看護科学学会のホームページについて

課題、及び改善方針について検討した。

委員会開催：4 回（2023 年 8 月 29 日、9 月 27 日、12 月 10 日、3 月 13 日）12 月 10 日以外オンライン

(13) 看護倫理検討委員会（鎌倉やよい理事）

看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応を目的に、研究者のモラル向上や看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集・提供と学会としての対応策の検討、社会に向けた見解の発信を実施する。

- ・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。
- ・看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。

上記の目標に関連し、日本看護系大学協議会が「看護学教育における倫理指針改訂版（2008 年 12 月）」を改訂し、「看護学教育における倫理綱領」（案）として 2024 年 3 月 30 日に周知された。これについて検討し意見を日本看護系大学協議会に提出した。

(14) 利益相反委員会（山本則子理事）

役員等の潜在的利益相反判定を実施し、該当の案件について判定し、不適切な事象が起こらないようマネジメントする。また、重大な COI 状態が生じた場合は、本委員会が諮問し答申に基づき改善措置を実施する。

- ・日本看護科学学会における利益相反マネジメント指針・細則の見直しを行い、学会顧問弁護士、委員会委員との審議による修正案を理事会に諮り承認され改正した。
- ・日本看護科学学会における利益相反マネジメント指針・細則の改正に伴い、ホームページにおける説明内容を変更した。
- ・和文誌・英文誌投稿時の利益相反申告を引き続き実施した。
- ・セミナー等の講師の利益相反申告に対応した。

- ・日本看護科学学会における学術活動の利益相反と諸規則との整合性を検討した。
- ・学術集会における発表者を対象とした利益相反申告システムの導入に向け、システム内容の検討・整備および業者選定を行った。

委員会開催：2回（2023年8月10日、12月28日）

(15) 研究倫理審査委員会（山本則子理事）

学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査する。

研究倫理審査の実施

- ・外部機関からの本学会研究倫理審査に関する問い合わせに対応した。
- ・2023年度は2件の申請があり、1件は不承認、1件は条件付承認となった。

委員会開催：2回（2023年12月4日オンライン[全員出席]、2024年2月20日メールによる簡易審査）

(16) 災害看護支援委員会（西村ユミ副理事長）

看護系学会、および防災学術連携体等と連携し情報収集や災害時の活動について検討している。

- ・「COVID-19 感染拡大状況に伴う日本看護科学学会会員である看護職の派遣支援活動と支援ニーズの実態」(2022年7～8月調査)の調査内容について、さらに分析しなおして英訳し、“Association between anxiety and factors before and after dispatch support activities regarding the COVID-19 pandemic among Japanese nursing researchers”として、本学会英文誌に投稿した。現在査読中である。
- ・災害に関するセミナー、シンポジウム、講演会等、必要な災害看護支援や研究課題に関する情報を収集し、学会HPやメール配信を通して会員への情報提供を行った。
- ・会員を対象とした、災害発生時緊急調査「災害に伴う研究活動への影響に関する調査」を計画し、令和6年能登半島地震発生に伴い調査を実施した。緊急調査の結果から、研究活動への影響や支援活動の実態、支援ニーズ等を把握した。支援ニーズへの対応の準備、調査結果に基づいたJANS44の交流集会の企画の検討、成果報告の準備を行っている。
- ・日本災害看護学会、日本看護系大学協議会、日本看護系学会協議会と能登半島地震への支援活動に関する情報交換を行い、委員会活動に活かした。

委員会開催：4回（2023年8月31日、2023年10月9日、2023年12月10日、2024年3月25日）
オンライン

(17) 若手研究者助成選考委員会（池田真理理事）

2020年からの準備委員会の活動を経て、2021年4月から若手研究者への助成を開始した。

① 若手研究者が国外で開催される学術集会へ出席するための助成

2021年度からの開始後、2023年度まで申請がなく、2023年8月開催の委員会において助成金額につ

いての検討を行い、9月の理事会において研究助成金の金額の改訂が承認された。また、規程等の変更が10月理事会において承認された（助成金額の上限を高くした）。

その後、10月に1件「若手研究者が国外で開催される学術集会へ出席するための助成」の申請（以下）があり、審査の結果採択された。

氏名（敬称略）	計画名	金額
矢坂 泰介	訪問看護利用高齢者における身体機能低下の予測因子の検討： 前向きコホート研究 GSA 2023 Annual Scientific Meeting への出席	500,000 円

② 若手研究者が海外留学するための助成

- ・初年度である2021年度上期は3件の申請があり、2件の海外留学について助成を行った。
- ・2022年度から随時募集としたが、コロナ禍の影響もあり問い合わせや申請はなかった。
- ・2021年度助成者から報告書が提出され、内容を確認後、受理とした。

その後、第43回学術集会にて国際活動推進委員会が主催の交流集会での発表、日本看護科学会誌（和文誌）への留学報告が掲載された。

- ・2023年度は1件の申請があり（2023年9月末現在）、海外留学について助成を決定した。

氏名（敬称略）	計画名	金額
長谷川 奈々子	University of Massachusetts Amherst への海外留学 高齢者施設ケアにおける尊厳の要素の具体化 (Exploring the elements of dignity in nursing home care)	860,000 円

- ・2023年8月開催の委員会において助成金額についての検討を行い、9月の理事会において研究助成金の金額の改訂が承認された。また、規程等の変更が10月理事会において承認された。
- ・2024年1月に1件の申請があった。選考委員会では「条件付き採択」の判断であり、2月の理事会にて承認されている。本件については申請者が別の組織に同時に申請し「補欠」の回答を得ており、他組織から正式に「不採択」となった場合はこちらが「採択」することとなっている。（実施は2024年9月から6か月の海外留学である）

委員会開催：4回（2023年6月13日、8月9日、8月16日、2024年2月2日）オンライン

(18) 研究助成選考委員会（仲上豪二朗理事）

2022年7月から会員向けに研究助成の申請を開始している。

- ① 2023年度の採択案の作成と理事会承認（2022年度内に実施）
- ② 2023年度助成事業採択者への助成金交付 2023年4月実施（詳細は以下）

1) 正会員（大学院生・ポストドクター）が研究を行うための挑戦的課題研究助成

	氏名（敬称略）	計画課題名	金額(円)
1	奥井 早月	Interprofessional Collaboration（多職種連携）における看護職の Coordination 技術の解明 - 慢性疾患看護専門看護師の取り組みに焦点を あてたエスノグラフィー	500,000

2	櫻井 佐知子	タンザニアにおける妊娠高血圧・子癇予防行動を育むインフォグラフィック教材による参加型プログラム：準実験研究	500,000
3	山田 薫子	看護師のキャリア・コンピテンシーが仕事の資源とワーク・エンゲイジメントとの関連に与える影響	500,000
4	前田 直宏	慢性閉塞性肺疾患療養者の身体活動性を改善に導く訪問看護の理論構築	485,000
5	佐藤 亜希子	就労女性の便秘に影響を与える就労状況要因についての調査	500,000
6	國光 真生	病原細菌皮膚常在モデル動物の開発：「創傷環境の最適化」に向けた基礎の構築	500,000
7	富田 綾	硬膜外麻酔分娩時の母体への薬剤投与量と児の唾液オキシトシン濃度との関連：早期母子接触実施前後のオキシトシン濃度比較	500,000
8	松原 千晴	フェムテックを活用した働く女性の包括的健康支援システムの構築に関する研究	270,000
9	堀江 良子	摂取する油を置き換えることで肥満皮膚のバリア機能は改善するのか？- 実現可能性の高いケア方法の確立に向けて-	500,000
10	有田 弥棋子	看護学生の臨地実習における意欲・意志・パフォーマンス理論を基盤とした責任ある学習行動をリフレクションするための尺度の開発	473,000
11	板谷 崇央	看護師からみたパンデミック下での多職種連携の課題の探求	500,000
助成金合計			5,228,000

2) 正会員（除く大学院生・ポストドクター）が研究を行うための指定課題研究助成

	氏名(敬称略)	計画課題名	金額(円)
1	澤渡 浩之	Virtual Reality 装置を用いた、集中治療領域における臨床経験に富んだ看護師の視覚的行動様式を解明する試み	1,000,000
2	青木 裕見	OSA 患者が看護師と話し合いながら CPAP 導入を検討するための Decision Aid の開発	1,000,000
3	土屋 雅子	地域を基盤としたがんサバイバーシップケア拡大に向けた一般市民向けウェブ体験学習プログラムの実装研究	1,000,000
4	安部 聡子	中高年看護師の加齢による感覚器機能低下が及ぼす看護実践能力への影響	515,000
助成金合計			3,515,000

③ 検討事項の理事会承認

- ・所属先での所得がある大学院生・ポストドクターを対象にする
- ・指定課題研究助成の課題の決定

④ 2023 年度の完了報告と延長の申し出に関する件

1) 正会員（大学院生・ポストドクター）が研究を行うための挑戦的課題研究助成

- ・完了報告書提出：1 件（2024 年 3 月 31 日現在） 4 月 30 日まで延長
- ・延長の申し出：6 件

- 2) 正会員（除く大学院生・ポストドクター）が研究を行うための指定課題研究助成
 - ・完了報告書提出：0件（2024年3月31日現在） 4月30日まで延長
 - ・延長の申し出：2件

⑤ 2024年度の募集要項の作成・決定と募集、選考による採択について

選考委員会での決定後、理事会（2024年2月）にて承認

- 1) 正会員（大学院生・ポストドクター）が研究を行うための挑戦的課題研究助成
 - ・申請件数19件 採択11件 助成金5,285,040円（詳細はホームページ）
 - 2024年4月に助成金を振込予定
- 2) 正会員（除く大学院生・ポストドクター）が研究を行うための指定課題研究助成
 - ・申請件数7件 うち1件は対象外 採択5件 うち1件は辞退 助成金4,000,000円（詳細はホームページ）
 - 2024年4月に助成金を振込予定

委員会開催：1回（2024年1月21日）オンライン

(19) 会則等委員会（鎌倉やよい理事）

本委員会は、定款や各種規定等の見直しを通して公益社団法人として継続的かつ発展的な学会運営を行う。

① 総務会からの依頼に基づき、学生会員の新設に伴う規程類の改正内容の検討

学生会員の新設に関する総務会からの依頼を受けて、定款、定款細則及び会員資格基準の改正案について、改正事項の点検と改正内容を検討して意見提出し、最終案を導いた。

② 定款の見直しに伴う下位規則等の見直しの必要性の検討

上記の学生会員の新設に関連して、定款修正は枝番を作成することを推奨し、下位規則等への影響を最小限とした。

(20) 総務委員会（田口敦子理事）

学会事務所の運営、会員の入会審査、会員管理を実施した（会員数等については、総務報告を参照）。

① 入会審査、会員管理の実施

入会審査、会員管理はITの導入による合理化と効率化を推進、併せて個人情報の扱いにも細心の注意を払った。2023年度の入会審査数は、809名であった（2024年3月現在）。

② 学会事務所の運営

- ・学会事務所は、社会への本会の窓口であり、学会管理や他の委員会活動を支える拠点と意識して運営・管理を心掛けた。
- ・事務所職員と緊密に連携をとり情報共有に努めた。併せて定期的な事務所の訪問と職員との面談を実施し、各職員の担当業務や業務遂行状況の把握を行った。
- ・COVID-19対策として実施した在宅勤務は、5月からの5類感染症への移行に伴う事務所出勤を主とした勤務体制への変更においても一定の効果があることから、事務所長とも相談し、週に2回程度は継続することを決定した。
- ・パートスタッフが2024年3月末で定年退職するにあたり、以前から検討していた会計処理の安全管理

体制の充実を図り、加えて事務所運営の安定化とスタッフの世代交代に備え、2024年2月に職員を1名採用し、職員6名の事務所体制とした。

- ・理事会、社員総会、学会総会に関し、役員確認に先立って議事録の確認を行うことで、役員の確認業務軽減と正確な記載内容の徹底に努めた。
- ・会員資格基準の変更および学生会員の創設を検討するため、オンラインおよびメールにて2回の委員会を開催した。

(21) COVID-19 看護研究等対策委員会（吉永尚紀理事）

本委員会は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって生活が一変した社会において公益社団法人日本看護科学学会の定款第2条に定める「看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献する」に基づき、このCOVID-19の状況下で何ができるのかを実践するために時限的（2～3年）な活動をすることで理事会承認により設置された。2023年は下記の事業を実施した。

① 第1回調査（調査期間：2020年7月1日から8月10日）で取得したデータの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクトの成果について

2023年に新たに学術誌に掲載された2論文を学会HP上に公開した。

- ◆ Inoue M, Fukahori H, Matsubara M, Yoshinaga N, Tohira H.

Latent Dirichlet allocation topic modeling of free-text responses exploring the negative impact of the early COVID-19 pandemic on research in nursing.

Japan Journal of Nursing Science. 2023;20(2):e12520

- ◆ Lee K, Takahashi F, Kawasaki Y, Yoshinaga N, Sakai H.

Prediction models for the impact of the COVID-19 pandemic on research activities of Japanese nursing researchers using deep learning

Japan Journal of Nursing Science. 2023; 20(3):e12529

② 第2回調査（調査期間：2022年3月1日から3月31日）で取得したデータの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクトについて

採択した4件（4チーム）に当委員会の委員が共同研究者として加わり研究チームを構築した。2024年3月末までに論文を投稿することを目指し、各チームで分析作業ならびに論文執筆を進めている。

③ 第1回・第2回調査で取得したデータ（自由回答の結果を除く）について

東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターに寄託し、2023年12月に公開された。

委員会開催回数：メールベースでの検討および各活動の担当委員のみでのオンライン会議

(22) 選挙管理委員会（武村雪絵委員長・田口敦子理事）

① 2023年選出役員候補者選挙実施

- ・2023年3月3日公示文書をホームページに公開し、新代議員にメール配信を行った。
- ・2023年3月13日から26日に電子投票を実施、第5回選挙管理委員会を3月27日に開催、立会人の

もと開票を行い当選通知の郵送をした。

- ・2023年4月24日の第6回選挙管理委員会で役員名簿を作成し、5月19日の第1回理事会に選挙報告とともに提出し承認された。

委員会開催：1回（2023年4月24日）

(23) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会（JANA）（西村ユミ副理事長）

- ・2023年度社員総会は、ハイブリッド開催で行われた。

日時：2023年6月10日（土）10:00～12:30（意見交換会 10:00～10:50、総会 11:00～12:30）

会場名：TKP 東京駅カンファレンスセンターホール 10A

ハイブリッド開催：新旧役員は現地参加あるいはオンライン、社員学会はオンライン参加

報告事項：2022年度の活動報告、庶務報告、意見交換会・理事会報告、各事業報告、及び次期の事業案

審議事項：2022年度決算報告、2022年度監査報告、2023年度予算案、定款の改正、新役員の承認、新会長選出及び指名理事の承認

- ・医療事故報告制度に関する支援の一環として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、2023年度は5名の会員を個別調査部会員に推薦した。この協力については2016年度から行っており、51名の会員を推薦してきた。
- ・JANS43とJANAとの共催シンポジウム「看護学から學術の危機と発展を考える」へ登壇者を推薦した。

- ・意見交換会へ出席した。

日時：2024年2月27日（火）18:00～19:30

方法：Zoomによるオンライン開催

内容：委員会体制になったJANAの方向性について
各社員学会との今後の連携について

- ・その他、JANAから提供された情報を必要に応じ会員、役員にメール配信し共有した。

② 看護系学会等社会保険連合（看保連）（大久保暢子理事）

- ・看護系学会等保険連合の2024年度研究助成推薦について、本会からの承認希望を募ったところ1名の応募があり、社会貢献委員会で審査し承認となった。

③ 日本学術会議（西村ユミ副理事長）

- ・日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。

④ その他の機関（西村ユミ副理事長）

対応すべき事案はなかった。

第1号議案

法人名:公益社団法人 日本看護科学学会

貸借対照表
2024年 3月 31日 現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	131,254,659	143,114,350	△ 11,859,691
未収会費	2,680,000	2,770,000	△ 90,000
未収金	545,631	630,155	△ 84,524
たな卸資産	27,000	27,000	0
前払費用	7,580,572	7,097,162	483,410
仮払金	672,597	0	672,597
流動資産合計	142,760,459	153,638,667	△ 10,878,208
2. 固定資産			
(1)基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2)特定資産			
選挙積立預金	2,689,783	1,730,581	959,202
退職給付引当資産	10,172,200	8,893,800	1,278,400
若手研究者助成資金	26,520,000	27,880,000	△ 1,360,000
研究助成資金	21,257,000	30,000,000	△ 8,743,000
特定資産合計	60,638,983	68,504,381	△ 7,865,398
(3)その他固定資産			
建物附属設備	2,232,131	2,421,244	△ 189,113
什器備品	908,259	1,134,768	△ 226,509
ソフトウェア	2,799,867	3,366,000	△ 566,133
電話加入権	72,030	72,030	0
敷金	3,199,680	3,199,680	0
長期前払費用	0	54,994	△ 54,994
その他固定資産合計	9,211,967	10,248,716	△ 1,036,749
固定資産合計	69,850,950	78,753,097	△ 8,902,147
資産合計	212,611,409	232,391,764	△ 19,780,355
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払費用	4,660,071	6,643,276	△ 1,983,205
未払法人税等	76,200	75,100	1,100
未払消費税等	487,700	420,000	67,700
前受会費	17,440,000	17,810,000	△ 370,000
前受金	250,000	250,000	0
預り金	499,106	274,254	224,852
流動負債合計	23,413,077	25,472,630	△ 2,059,553
2. 固定負債			
退職給付引当金	10,172,200	8,893,800	1,278,400
固定負債合計	10,172,200	8,893,800	1,278,400
負債合計	33,585,277	34,366,430	△ 781,153
III 正味財産の部			
1. 基金			
基金	72,926,624	72,926,624	0
2. 指定正味財産			
3. 一般正味財産			
(1)代替基金	0	0	0
(2)その他一般正味財産	106,099,508	125,098,710	△ 18,999,202
一般正味財産合計	106,099,508	125,098,710	△ 18,999,202
(うち特定資産への充当額)	(50,466,783)	(59,610,581)	(△ 9,143,798)
正味財産合計	179,026,132	198,025,334	△ 18,999,202
負債及び正味財産合計	212,611,409	232,391,764	△ 19,780,355

貸借対照表内訳表
2024年 3月 31日 現在

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	31,545,639	0	99,709,020	0	131,254,659
未収会費	0	0	2,680,000	0	2,680,000
未収金	525,631	0	20,000	0	545,631
たな卸資産	27,000	0	0	0	27,000
前払費用	6,824,608	0	755,964	0	7,580,572
仮払金	0	0	672,597	0	672,597
他会計短期貸付金	0	0	212,538,786	△ 212,538,786	0
流動資産合計	38,922,878	0	316,376,367	△ 212,538,786	142,760,459
2. 固定資産					
(1)基本財産					
基本財産合計	0	0	0	0	0
(2)特定資産					
選挙積立預金	0	0	2,689,783	0	2,689,783
退職給付引当資産	0	0	10,172,200	0	10,172,200
若手研究者助成資金	26,520,000	0	0	0	26,520,000
研究助成資金	21,257,000	0	0	0	21,257,000
特定資産合計	47,777,000	0	12,861,983	0	60,638,983
(3)その他固定資産					
建物附属設備	1,566,502	35,624	630,005	0	2,232,131
什器備品	637,411	14,497	256,351	0	908,259
ソフトウェア	2,799,867	0	0	0	2,799,867
電話加入権	0	0	72,030	0	72,030
敷金	2,245,522	51,068	903,090	0	3,199,680
その他固定資産合計	7,249,302	101,189	1,861,476	0	9,211,967
固定資産合計	55,026,302	101,189	14,723,459	0	69,850,950
資産合計	93,949,180	101,189	331,099,826	△ 212,538,786	212,611,409
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払費用	3,825,590	0	834,481	0	4,660,071
未払法人税等	0	76,200	0	0	76,200
未払消費税等	0	0	487,700	0	487,700
前受会費	200,000	0	17,240,000	0	17,440,000
前受金	250,000	0	0	0	250,000
預り金	0	0	499,106	0	499,106
他会計短期借入金	207,852,333	4,686,453	0	△ 212,538,786	0
流動負債合計	212,127,923	4,762,653	19,061,287	△ 212,538,786	23,413,077
2. 固定負債					
退職給付引当金	0	0	10,172,200	0	10,172,200
固定負債合計	0	0	10,172,200	0	10,172,200
負債合計	212,127,923	4,762,653	29,233,487	△ 212,538,786	33,585,277
III 正味財産の部					
1. 基金					
基金	0	0	72,926,624	0	72,926,624
2. 指定正味財産					
3. 一般正味財産					
(1)代替基金	0	0	0	0	0
(2)その他一般正味財産	△ 118,178,743	△ 4,661,464	228,939,715	0	106,099,508
一般正味財産合計	△ 118,178,743	△ 4,661,464	228,939,715	0	106,099,508
(うち特定資産への充当額)	(47,777,000)	(0)	(2,689,783)	(0)	(50,466,783)
正味財産合計	△ 118,178,743	△ 4,661,464	301,866,339	0	179,026,132
負債及び正味財産合計	93,949,180	101,189	331,099,826	△ 212,538,786	212,611,409

正味財産増減計算書
2023年 4月 1日 から 2024年 3月 31日 まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益			
特定資産受取利息	109	125	△ 16
受取会費			
正会員受取会費	103,740,000	102,490,000	1,250,000
賛助会員受取会費	250,000	250,000	0
受取会費計	103,990,000	102,740,000	1,250,000
事業収益			
学会誌収益	961,600	1,047,560	△ 85,960
著作権料収益	1,993,814	1,513,095	480,719
セミナー収益	40,000	658,000	△ 618,000
学術集会収益	43,929,000	45,186,000	△ 1,257,000
広告販売収益	11,733,000	10,006,530	1,726,470
事業収益計	58,657,414	58,411,185	246,229
受取補助金等			
受取地方公共団体補助金	0	237,000	△ 237,000
受取民間補助金	300,000	0	300,000
受取民間助成金	600,000	3,300,000	△ 2,700,000
受取補助金等計	900,000	3,537,000	△ 2,637,000
受取寄付金			
受取寄付金	0	8,041,595	△ 8,041,595
雑収益			
受取利息	2	6	△ 4
経常収益計	163,547,525	172,729,911	△ 9,182,386
(2) 経常費用			
事業費			
期首たな卸高	27,000	27,000	0
和文誌発行費	12,424,390	11,080,854	1,343,536
英文誌発行費	21,785,061	20,223,080	1,561,981
期末たな卸高	△ 27,000	△ 27,000	0
給料手当	14,681,059	14,455,863	225,196
臨時雇賃金	254,825	299,702	△ 44,877
賞与	2,348,232	2,269,156	79,076
退職給付費用	917,579	812,643	104,936
福利厚生費	2,914,177	2,729,382	184,795
旅費交通費	3,416,333	2,631,973	784,360
通信運搬費	4,005,304	5,193,286	△ 1,187,982
減価償却費	1,106,448	824,302	282,146
消耗品費	1,260,044	4,765,571	△ 3,505,527
修繕費	38,450	86,848	△ 48,398
印刷製本費	6,265,925	9,187,014	△ 2,921,089
光熱水料費	241,126	430,723	△ 189,597
賃借料	5,648,767	5,433,645	215,122
保険料	59,681	65,067	△ 5,386
諸謝金	3,552,769	6,026,295	△ 2,473,526
租税公課	487,700	420,000	67,700
支払助成金	10,103,000	0	10,103,000
委託費	31,896,362	31,193,494	702,868
会議費	1,445,438	474,069	971,369
表彰費	515,915	1,211,086	△ 695,171
会場費	25,859,070	27,273,625	△ 1,414,555
通勤手当	1,053,738	952,929	100,809
雑費	4,472,001	7,009,086	△ 2,537,085
事業費計	156,753,394	155,049,693	1,703,701

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
管理費			
給料手当	5,773,045	5,684,492	88,553
賞与	923,398	892,302	31,096
臨時雇賃金	33,000	30,000	3,000
退職給付費用	360,821	319,557	41,264
福利厚生費	1,145,945	1,073,277	72,668
会議費	5,712,406	1,796,830	3,915,576
渉外費	0	7,967	△ 7,967
旅費交通費	114,351	115,870	△ 1,519
通信運搬費	608,622	2,758,471	△ 2,149,849
減価償却費	117,307	90,562	26,745
通勤手当	414,362	374,721	39,641
消耗品費	204,986	1,273,084	△ 1,068,098
修繕費	15,120	34,152	△ 19,032
印刷製本費	104,842	601,009	△ 496,167
慶弔費	0	55,530	△ 55,530
光熱水料費	94,818	169,373	△ 74,555
賃借料	2,221,269	2,136,677	84,592
保険料	23,469	25,587	△ 2,118
租税公課	51,932	53,232	△ 1,300
支払負担金	430,000	430,000	0
委託費	4,302,422	5,620,642	△ 1,318,220
資格喪失者会費	2,420,000	2,140,000	280,000
雑費	645,018	669,002	△ 23,984
管理費計	25,717,133	26,352,337	△ 635,204
経常費用計	182,470,527	181,402,030	1,068,497
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 18,923,002	△ 8,672,119	△ 10,250,883
当期経常増減額	△ 18,923,002	△ 8,672,119	△ 10,250,883
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損			
什器備品除却損	0	2,829	△ 2,829
経常外費用計	0	2,829	△ 2,829
当期経常外増減額	0	△ 2,829	2,829
税引前当期一般正味財産増減額	△ 18,923,002	△ 8,674,948	△ 10,248,054
法人税、住民税及び事業税	76,200	75,100	1,100
当期一般正味財産増減額	△ 18,999,202	△ 8,750,048	△ 10,249,154
一般正味財産期首残高	125,098,710	133,848,758	△ 8,750,048
一般正味財産期末残高	106,099,508	125,098,710	△ 18,999,202
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 基金増減の部			
基金受入額	0	0	0
基金返還額	0	0	0
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	72,926,624	72,926,624	0
基金期末残高	72,926,624	72,926,624	0
Ⅳ 正味財産期末残高	179,026,132	198,025,334	△ 18,999,202

正味財産増減計算書内訳表
2023年 4月 1日 から 2024年 3月 31日 まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計							収益事業等会計			法人会計	合計
	学術振興事業	学会誌事業	学術集会事業	市民講座等事業	災害看護支援事業	共通	小計	広告販売事業	連携事業	小計		
I 一般正味財産増減の部												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
特定資産運用益												
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	109	109
受取会費												
正会員受取会費	0	0	0	0	0	51,870,000	51,870,000	0	0	0	51,870,000	103,740,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	250,000	250,000	0	0	0	0	250,000
受取会費計	0	0	0	0	0	52,120,000	52,120,000	0	0	0	51,870,000	103,990,000
事業収益												
学会誌収益	0	961,600	0	0	0	0	961,600	0	0	0	0	961,600
著作権料収益	0	1,993,814	0	0	0	0	1,993,814	0	0	0	0	1,993,814
セミナー収益	38,000	2,000	0	0	0	0	40,000	0	0	0	0	40,000
学術集会収益	0	0	43,929,000	0	0	0	43,929,000	0	0	0	0	43,929,000
広告販売収益	0	0	0	0	0	0	0	11,733,000	0	11,733,000	0	11,733,000
事業収益計	38,000	2,957,414	43,929,000	0	0	0	46,924,414	11,733,000	0	11,733,000	0	58,657,414
受取補助金等												
受取民間補助金	0	0	300,000	0	0	0	300,000	0	0	0	0	300,000
受取民間助成金	0	0	600,000	0	0	0	600,000	0	0	0	0	600,000
受取補助金等計	0	0	900,000	0	0	0	900,000	0	0	0	0	900,000
雑収益												
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
経常収益計	38,000	2,957,414	44,829,000	0	0	52,120,000	99,944,414	11,733,000	0	11,733,000	51,870,111	163,547,525
(2) 経常費用												
事業費												
期首たな卸高	0	27,000	0	0	0	0	27,000	0	0	0	0	27,000
和文誌発行費	0	12,424,390	0	0	0	0	12,424,390	0	0	0	0	12,424,390
英文誌発行費	0	21,785,061	0	0	0	0	21,785,061	0	0	0	0	21,785,061
期末たな卸高	0	△ 27,000	0	0	0	0	△ 27,000	0	0	0	0	△ 27,000
給料手当	7,081,282	1,759,519	4,769,664	744,135	0	0	14,354,600	158,429	168,030	326,459	0	14,681,059
臨時雇賃金	194,760	53,943	0	6,122	0	0	254,825	0	0	0	0	254,825
賞与	1,132,649	281,435	762,907	119,024	0	0	2,296,015	25,341	26,876	52,217	0	2,348,232
退職給付費用	442,586	109,972	298,108	46,509	0	0	897,175	9,902	10,502	20,404	0	917,579
福利厚生費	1,405,628	349,263	946,774	147,710	0	0	2,849,375	31,448	33,354	64,802	0	2,914,177
旅費交通費	229,925	147,551	2,961,199	22,841	0	0	3,361,516	51,532	3,285	54,817	0	3,416,333
通信運搬費	1,173,376	177,571	2,407,315	182,201	0	0	3,940,463	48,315	16,526	64,841	0	4,005,304
減価償却費	935,889	51,886	96,918	15,121	0	0	1,099,814	3,219	3,415	6,634	0	1,106,448
消耗品費	283,999	62,476	858,832	31,502	0	0	1,236,809	17,269	5,966	23,235	0	1,260,044
修繕費	18,546	4,608	12,492	1,949	0	0	37,595	415	440	855	0	38,450
印刷製本費	2,369,080	31,954	3,659,438	199,524	0	0	6,259,996	2,877	3,052	5,929	0	6,265,925
光熱水料費	116,305	28,899	78,338	12,222	0	0	235,764	2,602	2,760	5,362	0	241,126
賃借料	2,724,635	677,002	1,835,203	286,317	0	0	5,523,157	60,958	64,652	125,610	0	5,648,767
保険料	28,786	7,153	19,390	3,025	0	0	58,354	644	683	1,327	0	59,681
諸謝金	1,147,109	177,959	2,084,056	143,645	0	0	3,552,769	0	0	0	0	3,552,769
租税公課	847	34,310	190,982	0	0	0	226,139	261,561	0	261,561	0	487,700
支払助成金	10,103,000	0	0	0	0	0	10,103,000	0	0	0	0	10,103,000
委託費	5,896,836	1,766,722	19,779,546	4,390,601	0	0	31,833,705	30,407	32,250	62,657	0	31,896,362
会議費	16,008	23,250	1,381,597	1,250	0	0	1,422,105	23,333	0	23,333	0	1,445,438
表彰費	0	515,915	0	0	0	0	515,915	0	0	0	0	515,915
会場費	3,242	37,503	25,374,085	15,711	0	0	25,430,541	428,529	0	428,529	0	25,859,070
通勤手当	508,262	126,290	342,344	53,411	0	0	1,030,307	11,371	12,060	23,431	0	1,053,738
雑費	846,275	207,493	3,062,962	318,796	0	0	4,435,526	17,701	18,774	36,475	0	4,472,001
事業費計	36,659,025	40,842,125	70,922,150	6,741,616	0	0	155,164,916	1,185,853	402,625	1,588,478	0	156,753,394

科 目	公益目的事業会計							収益事業等会計			法人会計	合計
	学術振興事業	学会誌事業	学術集会事業	市民講座等事業	災害看護支援事業	共通	小計	広告販売事業	連携事業	小計		
管理費												
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,773,045	5,773,045
賞与	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	923,398	923,398
臨時雇賃金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33,000	33,000
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	360,821	360,821
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,145,945	1,145,945
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,712,406	5,712,406
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	114,351	114,351
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	608,622	608,622
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	117,307	117,307
通動手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	414,362	414,362
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	204,986	204,986
修繕費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15,120	15,120
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	104,842	104,842
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	94,818	94,818
賃借料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,221,269	2,221,269
保険料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23,469	23,469
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51,932	51,932
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	430,000	430,000
委託費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,302,422	4,302,422
資格喪失者会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,420,000	2,420,000
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	645,018	645,018
管理費計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25,717,133	25,717,133
経常費用計	36,659,025	40,842,125	70,922,150	6,741,616	0	0	155,164,916	1,185,853	402,625	1,588,478	25,717,133	182,470,527
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 36,621,025	△ 37,884,711	△ 26,093,150	△ 6,741,616	0	52,120,000	△ 55,220,502	10,547,147	△ 402,625	10,144,522	26,152,978	△ 18,923,002
当期経常増減額	△ 36,621,025	△ 37,884,711	△ 26,093,150	△ 6,741,616	0	52,120,000	△ 55,220,502	10,547,147	△ 402,625	10,144,522	26,152,978	△ 18,923,002
2. 経常外増減の部												
(1) 経常外収益												
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用												
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 36,621,025	△ 37,884,711	△ 26,093,150	△ 6,741,616	0	52,120,000	△ 55,220,502	10,547,147	△ 402,625	10,144,522	26,152,978	△ 18,923,002
他会計振替額	0	0	0	0	0	10,352,595	10,352,595	△ 10,352,595	0	△ 10,352,595	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 36,621,025	△ 37,884,711	△ 26,093,150	△ 6,741,616	0	62,472,595	△ 44,867,907	194,552	△ 402,625	△ 208,073	26,152,978	△ 18,923,002
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	0	0	0	0	76,200	0	76,200	0	76,200
当期一般正味財産増減額	△ 36,621,025	△ 37,884,711	△ 26,093,150	△ 6,741,616	0	62,472,595	△ 44,867,907	118,352	△ 402,625	△ 284,273	26,152,978	△ 18,999,202
一般正味財産期首残高	-	-	-	-	-	-	△ 73,310,836	-	-	△ 4,377,191	202,786,737	125,098,710
一般正味財産期末残高	-	-	-	-	-	-	△ 118,178,743	-	-	△ 4,661,464	228,939,715	106,099,508
II 指定正味財産増減の部												
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
指定正味財産期末残高	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
III 基金増減の部												
基金受入額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基金返還額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期基金増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基金期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72,926,624	72,926,624
基金期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72,926,624	72,926,624
IV 正味財産期末残高	-	-	-	-	-	-	△ 118,178,743	-	-	△ 4,661,464	301,866,339	179,026,132

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1)当法人は、公益法人会計基準(平成20年4月11日 令和2年5月15日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(2)たな卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっている。

(3)固定資産の減価償却の方法

法人税法の規定に基づき次のとおりの償却方法を採用している。

①建物附属設備…定額法によっている。

②什器備品…定率法によっている。

③ソフトウェア…定額法によっている。

(4)引当金の計上基準

退職給付引当金…当期末退職給与の自己都合要支給額に相当する額を計上している。

(5)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
選挙積立預金	1,730,581	1,000,022	40,820	2,689,783
退職給付引当資産	8,893,800	1,278,400	0	10,172,200
若手研究者助成資金	27,880,000	0	1,360,000	26,520,000
研究助成資金	30,000,000	0	8,743,000	21,257,000
合計	68,504,381	2,278,422	10,143,820	60,638,983

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	当期末残高	(うち基金からの充当額)	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
特定資産					
選挙積立預金	2,689,783	(0)	(0)	(2,689,783)	(0)
退職給付引当資産	10,172,200	(0)	(0)	(0)	(10,172,200)
若手研究者助成資金	26,520,000	(0)	(0)	(26,520,000)	(0)
研究助成資金	21,257,000	(0)	(0)	(21,257,000)	(0)
合計	60,638,983	(0)	(0)	(50,466,783)	(10,172,200)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	2,547,318	315,187	2,232,131
什器備品	2,028,430	1,120,171	908,259
ソフトウェア	4,202,000	1,402,133	2,799,867

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表の記載
第43回日本看護科学学会学術集会事業補助金	一般社団法人下関観光コンベンション協会	-	500,000	500,000	-	-
アトラクション活用助成金	一般社団法人下関観光コンベンション協会	-	100,000	100,000	-	-
大型コンベンション等誘致支援事業補助金	一般社団法人山口県観光連盟	-	300,000	300,000	-	-
合計		-	900,000	900,000	-	-

附属明細書

1. 重要な固定資産の明細

(単位:円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
特定資産	選挙積立預金	1,730,581	1,000,022	40,820	2,689,783
	退職給付引当資産	8,893,800	1,278,400	0	10,172,200
	若手研究者助成資金	27,880,000	0	1,360,000	26,520,000
	研究助成資金	30,000,000	0	8,743,000	21,257,000
	特定資産計	68,504,381	2,278,422	10,143,820	60,638,983
その他固定資産	建物附属設備	2,421,244	0	189,113	2,232,131
	什器備品	1,134,768	0	226,509	908,259
	ソフトウェア	3,366,000	242,000	808,133	2,799,867
	電話加入権	72,030	0	0	72,030
	敷金	3,199,680	0	0	3,199,680
	長期前払費用	54,994	0	54,994	0
	その他固定資産計	10,248,716	242,000	1,278,749	9,211,967

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	8,893,800	1,278,400	0	0	10,172,200

財産目録

2024年 3月 31日 現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金	手元現金 学術集会用小口現金	運転資金として 学術集会運営資金として	199,439 0
	預金	普通預金 みずほ銀行本郷支店 三菱UFJ銀行 本郷支店 三菱UFJ銀行 本郷支店 熊本銀行 白山通支店 ゆうちょ銀行 振替口座	運転資金として 運転資金として 学術集会運営資金として 学術集会運営資金として 運転資金として	92,098,063 3,525,901 31,045,638 500,001 3,885,617
	未収会費	2023年度会費268名分	会員会費未収金	2,680,000
	未収金	(株)中西印刷 (株)メテオ 会費2名分	2024.1~2024.3月分学会誌印税 2024.4~2024.3月分学会誌著作権料 未納退会除外分(4月1日入金分)	522,720 2,911 20,000
	たな卸資産	学会誌・学術講演集在庫	学会誌及び学術講演集	27,000
	前払費用	(有)プライムアソシエイツ ウィリアム・ルイス・ホルツマー (株)杏林舎 事務所賃貸人 事務所賃貸人 事務所賃借礼金 2024.4~2024.6月分 AIG損害保険(株) 弥生(株) 一般財団法人熊本市文化スポーツ財団	JJNS編集事務費2024.4~12月分 JJNS編集長報酬2024.4~6月分 システム利用料2024.4~12月分 事務所賃借料2024.4月分 管理業務の用に供している。 個人情報漏洩保険2024.4~2025.4月分 年間サポート更新料2024.4~2025.3月分 第44回学術集会 施設利用料	3,795,000 1,250,000 1,378,808 549,945 54,994 76,500 74,525 400,800
	仮払金	カクタス・コミュニケーションズ(株)	スタンダード学術翻訳	672,597
流動資産合計				142,760,459
(固定資産)				
特定資産				
	選挙積立預金	普通預金 みずほ銀行本郷支店	選挙のための資産である。	2,689,783
	退職給付引当資産	普通預金 三菱UFJ銀行本郷支店	退職金の引当資産である。	10,172,200
	若手研究者助成資金	普通預金 三菱UFJ銀行本郷支店	公益目的事業に係る特定費用準備資金であり、若手研究者への助成費用に備えるための資金である。	26,520,000
	研究助成資金	普通預金 三菱UFJ銀行本郷支店	公益目的事業に係る特定費用準備資金であり、研究者への助成費用に備えるための資金である。	21,257,000
その他固定資産				
	建物附属設備	東京都千代田区神田須田町1-5-14 間仕切り工事他3点	共用財産であり、公益目的事業の用に70.2%、収益事業等の用に1.6%、管理業務の用に28.2%供している。公益目的事業の用に供している部分は、公益目的保有財産である。	2,232,131
	什器備品	東京都千代田区神田須田町1-5-14 電話工事他5点	同上	908,259

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
	ソフトウェア	助成業務サポートシステム他	公益目的保有財産であり、公益目的事業の用に供している。	2,799,867
	電話加入権	事務所内	管理業務の用に供している。	72,030
	敷金	事務所賃貸人	共用財産であり、公益目的事業の用に70.2%、収益事業等の用に1.6%、管理業務の用に28.2%供している。公益目的事業の用に供している部分は、公益目的保有財産である。	3,199,680
固定資産合計				69,850,950
資産合計				212,611,409
(流動負債)				
	未払費用	中西印刷㈱ ㈱杏林舎 厚生労働省年金局 その他2件	和文学会誌Vol42(1月～3月)制作費他 ホームページSSL費用・運用費用他 社会保険料(2月・3月分) 公益目的事業に係るもの 管理業務に係るもの	3,731,750 228,800 591,510 93,840 14,171
	未払法人税等	神田税務署 東京都千代田都税事務所	2023年度法人税 2023年度法人住民税・事業税	4,700 71,500
	未払消費税等	神田税務署	2023年度消費税及び地方消費税	487,700
	前受会費	2024年度会費	2024年度賛助会員50,000円×4口 2024年度正会員10,000円×1,724名	17,440,000
	前受金	John Wiley&Sons Australia Ltd.	2024 Vol.21年間編集サポート費	250,000
	預り金	事務所員 事務所員 弁護士報酬他 事務所員	給与源泉税2024.1～3月分 住民税3月分 報酬源泉税2024.1～3月分 社会保険料2024.2月分	94,750 64,700 50,122 289,534
流動負債合計				23,413,077
(固定負債)				
	退職給付引当金	事務所員5名分	2024年3月末日要支給額	10,172,200
固定負債合計				10,172,200
負債合計				33,585,277
正味財産				179,026,132

2023年度 収支計算書
2023年 4月 1日 から2024年 3月 31日 まで

科 目	補足	2023年度 予算額 (2023. 4. 1～ 2024. 3. 31)	2023年度 実績額 (2023. 4. 1～ 2024. 3. 31)	差異	予算執行 率 (%)
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
①会費収入		101,750,000	101,310,000	440,000	99.6
正会員会費収入	※1	101,500,000	101,060,000	440,000	99.6
賛助会員会費収入	※2	250,000	250,000	0	100.0
②公益目的事業収入		48,165,000	47,824,414	340,586	99.3
学術振興事業収入		240,000	38,000	202,000	15.8
JANSセミナー	※3	240,000	38,000	202,000	15.8
学会誌事業収入		2,175,000	2,957,414	△ 782,414	136.0
学会誌販売収入		690,000	534,600	155,400	77.5
学会誌収入その他	※4	650,000	427,000	223,000	65.7
著作権料収入	※5	775,000	1,993,814	△ 1,218,814	257.3
JJNSセミナー	※6	60,000	2,000	58,000	3.3
学術集会事業収入		45,750,000	44,829,000	921,000	98.0
学術集会参加費収入		44,300,000	43,929,000	371,000	99.2
事前登録会員 (11,000円)		19,800,000	22,440,000	△ 2,640,000	113.3
事前登録非会員 (14,000円税込)		7,000,000	2,912,000	4,088,000	41.6
事前登録学部生 (無料)		0	0	0	0.0
当日登録会員 (13,000円)		13,000,000	11,999,000	1,001,000	92.3
当日登録非会員 (15,000円税込)		4,500,000	5,535,000	△ 1,035,000	123.0
当日登録学部生 (無料)		0	0	0	0.0
当日登録留学生 (2,000円税込)		0	30,000	△ 30,000	0.0
通常登録会員 (13,000円)	※7	13,000,000	923,000	12,077,000	7.1
通常登録非会員 (15,000円税込)		4,500,000	90,000	4,410,000	2.0
寄附金・助成金・補助金		1,450,000	900,000	550,000	62.1
寄附金		500,000	0	500,000	0.0
助成金		950,000	600,000	350,000	63.2
補助金		0	300,000	△ 300,000	0.0
③収益事業等収入 (広告販売収入)		9,168,000	11,733,000	△ 2,565,000	128.0
企業展示出展料		5,390,000	7,183,000	△ 1,793,000	133.3
広告掲載料		2,178,000	1,540,000	638,000	70.7
ランチョンセミナー		1,600,000	2,790,000	△ 1,190,000	174.4
スイーツセミナー		0	220,000	△ 220,000	0.0
④法人会計収入		951,000	111	950,889	0.0
懇親会収入	※8	950,000	0	950,000	0.0
特定資産受取利息収入		500	109	391	21.8
受取利息収入		500	2	498	0.4
事業活動収入合計 (I a)		160,034,000	160,867,525	△ 833,525	100.5
2. 事業活動支出					
①公益目的事業支出		129,547,000	120,279,568	9,267,432	92.8
学術振興事業支出		32,301,000	18,898,378	13,402,622	58.5
研究・学術推進委員会費支出	※9	1,154,000	171,294	982,706	14.8
看護ケア開発・標準化委員会	※10	9,520,000	5,030,855	4,489,145	52.8
若手研究者活動推進委員会費支出	※11	955,000	227,428	727,572	23.8
国際活動推進委員会費支出	※12	650,000	33,410	616,590	5.1
COVID-19看護研究等対策委員会費支出		200,000	10,400	189,600	5.2
看護学学術用語検討委員会費支出		1,381,000	1,186,157	194,843	85.9
看護倫理検討委員会費支出	※13	477,000	5,500	471,500	1.2
災害看護支援委員会支出	※14	500,000	696	499,304	0.1
若手研究者助成選考委員会		90,000	100,233	△ 10,233	111.4
若手研究者助成金支出	※15	5,000,000	1,360,000	3,640,000	27.2
研究助成選考委員会		922,000	937,200	△ 15,200	101.6
研究助成金支出	※16	10,000,000	8,743,000	1,257,000	87.4
研究倫理審査委員会費		94,000	740	93,260	0.8
JANSセミナー開催費	※17	1,358,000	1,091,465	266,535	80.4
学会誌事業支出		37,325,000	36,575,612	749,388	98.0
和文誌編集委員会費支出		48,000	5,500	42,500	11.5
和文誌編集費支出		12,285,000	12,424,390	△ 139,390	101.1
英文誌編集委員会費支出		570,000	752,678	△ 182,678	132.0
英文誌編集費支出		21,845,000	21,785,061	59,939	99.7
表彰論文選考委員会費支出	※18	474,000	77,706	396,294	16.4
受賞論文表彰費支出		653,000	515,915	137,085	79.0
JJNSセミナー開催費	※19	1,450,000	1,014,362	435,638	70.0
学術集会費支出		55,059,000	59,847,020	△ 4,788,020	108.7
当年度開催学術集会	※20	50,644,000	57,946,461	△ 7,302,461	114.4
次年度開催学術集会 (準備期間)	※21	4,415,000	1,900,559	2,514,441	43.0
市民講座等事業支出		4,862,000	4,958,558	△ 96,558	102.0
社会貢献委員会支出 (市民公開講座開催費含む)	※22	3,162,000	3,599,476	△ 437,476	113.8
広報委員会費支出 (公益目的事業分)	※23	1,700,000	1,359,082	340,918	79.9

科 目	補足	2023年度 予算額 (2023. 4. 1~ 2024. 3. 31)	2023年度 実績額 (2023. 4. 1~ 2024. 3. 31)	差異	予算執行 率 (%)
②管理費支出		67,636,000	57,268,804	10,367,196	84.7
給料手当支出		26,564,000	23,725,734	2,838,266	89.3
福利厚生費支出		4,808,000	4,060,122	747,878	84.4
通勤費支出		1,794,000	1,468,100	325,900	81.8
退職給付支出		300,000	0	300,000	0.0
学会総会費		518,000	365,421	152,579	70.5
社員総会費	※24	3,930,000	3,079,274	850,726	78.4
理事会費	※25	2,917,000	2,267,711	649,289	77.7
渉外費支出		20,000	0	20,000	0.0
旅費交通費支出	※26	780,000	399,836	380,164	51.3
消耗品費支出	※27	1,100,000	726,272	373,728	66.0
通信運搬費支出		2,124,000	2,011,742	112,258	94.7
印刷製本費支出	※28	135,000	371,459	△ 236,459	275.2
委託費支出	※29	7,347,000	6,371,061	975,939	86.7
人件費支出		40,000	33,000	7,000	82.5
諸謝金支出		50,000	0	50,000	0.0
慶弔費支出		50,000	0	50,000	0.0
貸借料支出		7,778,000	7,870,036	△ 92,036	101.2
光熱水料費支出		618,000	335,944	282,056	54.4
保険料支出		83,000	83,150	△ 150	100.2
租税公課支出	※30	950,000	539,632	410,368	56.8
負担金支出	※31	430,000	430,000	0	100.0
修繕費支出		50,000	53,570	△ 3,570	107.1
雑支出	※32	2,888,000	2,285,320	602,680	79.1
懇親会運営費支出	(※8)	2,000,000	0	2,000,000	0.0
委員会活動費支出		362,000	791,420	△ 429,420	218.6
総務委員会費支出		10,000	1,500	8,500	15.0
利益相反委員会費支出	※33	135,000	617,100	△ 482,100	457.1
広報委員会費支出(法人会計分)		20,000	0	20,000	0.0
会則等検討委員会費支出		192,000	132,000	60,000	68.8
選挙費用支出		5,000	40,820	△ 35,820	816.4
③その他支出		2,200,000	2,496,200	△ 296,200	113.5
資格喪失者会費支出	※34	2,200,000	2,420,000	△ 220,000	110.0
法人税、住民税および事業税	※35	0	76,200	△ 76,200	0.0
事業活動支出合計 (I b)		199,383,000	180,044,572	19,338,428	90.3
事業活動収支差額 (I a)-(I b)		△ 39,349,000	△ 19,177,047	△ 20,171,953	48.7
II 投資活動収支の部 (資金の内部移動)					
1. 投資活動収入(各積立金を取り崩し、それを資金として使用する)					
選挙積立取崩(選挙費用として使用)		5,000	40,820	△ 35,820	816.4
退職給付引当資産取崩		0	0	0	0.0
若手研究者助成資金取崩		5,000,000	1,360,000	3,640,000	27.2
研究助成資金取崩		10,000,000	8,743,000	1,257,000	87.4
長期前払費用振替収入		55,000	54,994	6	100.0
投資活動収入合計 (II a)		15,060,000	10,198,814	4,861,186	67.7
2. 投資活動支出(目的のある積立をするために、事業活動の資金を各積立預金に振り替える)					0.0
①特定資産取得支出 (各積立預金に振り替える)		2,200,000	2,278,422	△ 78,422	103.6
選挙積立預金		1,000,000	1,000,022	△ 22	100.0
退職給付引当金積立		1,200,000	1,278,400	△ 78,400	106.5
②固定資産取得支出 (固定資産に計上する)		0	242,000	△ 242,000	0.0
ソフトウェア取得支出		0	242,000	△ 242,000	0.0
長期前払費用取得支出		0	0	0	0.0
投資活動支出合計 (II b)		2,200,000	2,520,422	△ 320,422	114.6
投資活動収支差額 (II a)-(II b)		12,860,000	7,678,392	5,181,608	59.7
III 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入					
財務活動収入合計 (III a)		0	0	0	0.0
2. 財務活動支出					
財務活動支出合計 (III b)		0	0	0	0.0
財務活動収支差額 (III a)-(III b)		0	0	0	0.0
IV 予備費支出		1,000,000	0	1,000,000	0.0
当期収支差額		△ 27,489,000	△ 11,498,655	△ 15,990,345	41.8

< 補足 >

- ※1 2023年度会員数は10374名（期中死亡喪失、会員区分変更含む）であり、そのうち未納者は268名である。したがって2023年度会費の納入は 10106名分。2023年度会費の納入率は 97.4%（10106名/10374名）である。
- ※2 ㈱日本看護協会出版会2口、㈱医学書院・㈱南江堂・㈱へるす出版 各1口。会費1口 50,000円。
- ※3 JANSセミナー参加費（オンライン開催）。第20回開催から会員・学生の参加費を無料、非会員の参加費2,000円としているため収入が減少している。第21回開催は、2023年度中に入金された参加費のみを計上している。<第21回 32,000円（非会員2,000円×16名）>。<第22回 6,000円（非会員2,000円×3名）>。
- ※4 和文誌：会員外の共著者掲載料（247,000円）および、英文誌：会員外の超過ページ課金（180,000円）。
- ※5 英文誌出版契約書の更新（Wiley）および、JANS作成のガイドライン（南江堂）により増額している。
- ※6 JJNSセミナー参加費（オンライン開催）<18,000円（会員426名、非会員2,000円×9名、学生1名）>。2022年度から会員、学生は参加費無料となっている。
- ※7 第43回学術集会の収入。参加者 3644名（会員3034名、非会員583名、留学生15名、学生無料12名）。補助金（山口県）、助成金（下関観光コンベンション協会協会）。協賛企業 62件（展示39件、広告12件、ランチョン10件、スイーツセミナー1件）
- ※8 COVID-19の影響により懇親会の開催を中止した。
- ※9 能登半島地震の影響によりオンラインジャーナルクラブの開催を2024年度へ延期したが、委員会活動は予定どおりおこなわれた。
- ※10 高齢者排尿促進ガイドライン（1件）の作成を継続し2024年度に繰り越している。委員会活動は予定どおりおこなわれた。
- ※11 エリア検討会を7件開催した。（関西1回、甲信越・北陸1回、東海1回、中国・四国2回、北関東2回）オンライン開催が多いため経費の支出が抑えられている。委員会活動は予定どおりおこなわれた。
- ※12 セミナー開催費用として予算を立てていたが、学術集会の交流集会を開催したため費用の支出は無かったが、委員会活動は予定どおりおこなわれた。
- ※13 委員会がオンライン開催となり、旅費交通費などの経費の使用はなかったが、委員会活動は予定どおりおこなわれた。
- ※14 学術集会時に委員会を開催したため、旅費交通費などの経費の使用はなかったが、委員会活動は予定どおりおこなわれた。
- ※15 海外留学（1名）、国際学会参加（1名）へ助成をおこなった。
- ※16 挑戦的課題（11名）、指定課題（4名）へ助成をおこなった。
- ※17 年2回開催。第22回セミナー、第23回セミナーともオンライン開催。運営委託業者の変更により経費が抑えられた。
- ※18 学術集会時に委員会を開催したため、旅費交通費などの経費の使用はなかったが、委員会活動は予定どおりおこなわれた。
- ※19 年1回開催。運営委託業者の変更により経費が抑えられた。
- ※20 第43回学術集会の開催にかかった2023年度中の経費支出。
- ※21 第44回学術集会の準備にかかった2023年度中の経費支出。
- ※22 次世代発掘・育成プログラムフライヤーにかかる費用が予算を超過した。
- ※23 【広報委員会の活動のうち公益目的事業（市民公開講座、学術集会）に関する経費を事業費に計上している】
第43回学術集会と市民公開講座の写真撮影・編集、市民公開講座のフライヤー作成等をおこなった。
- ※24 コロナ禍以降初めての対面開催をおこなった。出席者は6月定時社員総会（開催地東京：85名）、12月社員総会（開催地下関：56名）であった。
- ※25 6月・12月以外の理事会はオンライン開催であった。定例理事会 6回（5月、6月、8月、10月、12月、2月）、臨時理事会 1回（7月）。
- ※26 学術集会（下関）の出張旅費が想定より抑えられた。
- ※27 総会資料印刷等を外部委託することにより用紙、コピー代などが抑えられた。
- ※28 2022年度より会費請求書の印刷を業者に依頼している。
- ※29 【法人として必要】
会計事務所報酬（123万円）<会計顧問料（79万円）、内閣府提出書類作成料（11万円）、社会保険労務士（33万円）>、公認会計士監査報酬（36万円）、顧問弁護士報酬（40万円）、司法書士業務報酬（9万円）。
【学会事業に直接必要】
会員管理システム利用料（277万円）<基本利用料（114万円）、会費コンビニ決済機能（27万円）、学術集会参加登録・行事管理機能（81万円）、アンケート機能（15万円）、クレジット決済機能追加（33万円）、ディスク領域使用料（7万円）>、JANSホームページ管理料（58万円）<基本利用料（50万円）、追加ページ費用（8万円）>、事務所PCサポート・プロパイダ保守費用（3万円）、オンライン会議システム利用料（26万円）、英訳費用（7万円）、封入・発送委託費（17万円）、参加費用クレジット決済システム初期導入費用（5万円）。
【事務所運営費】
事務所PC更新データ移行料（5万円）、職員採用費用（31万円）
- ※30 消費税課税売上高（学術集会非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など）に係る消費税（本則課税方式）および、収入印紙代。
- ※31 日本看護系学会協議会（JANA）8万円、看護系学会等社会保険連合（看保連）30万円、日本学術協力財団 5万円の年会費。
- ※32 会費等入金手数料（170万円）、経費等支払手数料（23万円）、ネットバンキング利用料（2万円）、貸金庫手数料（3万円）、証明書発行手数料（1万円）、給与ソフト年間サポート料（7万円）、事務所雑支出（22.5万円）<飲料水（10.5万円）、ごみ処理（4万円）、お茶・置き薬・衛生用品等（7万円）、レンタルマット（1万円）>
- ※33 COI自己申告機能開発費用（56万円）、COI自己申告機能年間保守費用初年度6ヶ月分（6万円）
- ※34 前年度（2022年度）会費の未納により会員資格を喪失（退会）している会員の未収会費。活動経費支出ではないが、会費未納により収入が減少するため費用に計上している。正味財産増減計算書にも表記されている。
- ※35 収益事業（学会誌販売収入、著作権収入、学術集会に伴う広告販売収入）に係る法人税4,700円、法人都民税70,200円、法人事業税1,300円。

監査報告書

公益社団法人日本看護科学学会
理事長 吉沢 豊予子 様

2023年4月1日から2024年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1. 監査の方法及びその内容

私ども監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について監査いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書、財産目録）および収支計算書について監査いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

(2) 財務諸表の監査結果

財務諸表は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2024年5月2日

公益社団法人日本看護科学学会

監事 井部 俊子 ⑩

監査報告書

公益社団法人日本看護科学学会
理事長 吉沢 豊予子 様

2023年4月1日から2024年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1. 監査の方法及びその内容

私ども監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について監査いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書、財産目録）および収支計算書について監査いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

(2) 財務諸表の監査結果

財務諸表は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2024年5月8日

公益社団法人日本看護科学学会

監事 数間 恵子 ⑩

独立監査人の監査報告書

令和6年5月2日

公益社団法人日本看護科学学会

理事会 御中

牧真之介公認会計士事務所

東京都港区

公認会計士 牧 真之介

<財務諸表等監査>

監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づく監査に準じて、公益社団法人日本看護科学学会の令和5年4月1日から令和6年3月31日までの令和5年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインI-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合に

は当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

<財産目録に対する意見>

財産目録に対する監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づき、公益社団法人日本看護科学学会の令和6年3月31日現在の令和5年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

第2号議案 ～ 第4号議案

内容

以下の2点について審議を提案

1. 学生会員の設置

定款の変更（第2号議案）

定款施行細則の改正（第3号議案）

会員資格基準の改正（第4号議案）

【提案理由】

若手育成は本会の重点課題の一つであるが、看護基礎教育課程の学生（専門学校の学生、学部生等）、大学院生（特に修士課程学生）といった業績のない者は入会できず、会費のハードルもあるのが現状である。そこで、「学生会員」を新しく創設し、次世代を担う若手の学会入会を促進することで、会員の拡充と看護学の発展に寄与するため提案する。

表. 学生会員の入会条件、入会方法、利用可能なサービス、年会費

入会条件	① 看護基礎教育課程の学生（専門学校、学部生等） ② 看護学に関連した専攻の大学院生（修士および博士課程の学生） フルタイム学生か、社会人学生かは問わない ③ 正会員の紹介
利用できるサービス	・学術集会参加、和文誌閲覧、英文誌閲覧、英文誌投稿、JANSpediaの閲覧 ・JANSセミナーへの無料参加（アーカイブ閲覧） ・オンラインジャーナルクラブへの参加 ・ガイドラインの閲覧、エリア検討会への参加、電子閲覧サービスの利用
利用できないサービス	・学会発表、和文誌投稿、和文誌迅速査読、英文誌投稿 fast track ・研究助成、若手研究助成、表彰への応募 ・選挙権、被選挙権、エリアコーディネーター資格
年会費	3,000円

2. 正会員の業績条件の変更

会員資格基準の改正（第4号議案）

【提案理由】

看護学の発展を目指し、医学や工学等、他分野の研究者との学際的な研究を推進する本会において、現在の資格基準は入会を阻む文言があるのが現状である。

看護と共同したいと考える他分野の研究者や他職種の入会を促進することで、会員の底辺を広げ、今後の看護学の一層の発展を目的として会員資格基準の改正を提案する。

第2号議案

定款の変更（学生会員の設置）

定款変更の理由：学生会員の設置と権限を規定（第9条、第10条の2）

上記による条文の修正と漢字表記の整合による微修正

（第13条、第15条、第19条、第21条）

公益社団法人日本看護科学学会 定款 改正案 （比較表）

変更前	変更後	変更の根拠・理由
<p>第3章 会 員</p> <p>（会員の種類）</p> <p>第9条 本会の会員は次のとおりとする。</p> <p>①正会員 ②賛助会員 ③名誉会員</p> <p>（正会員）</p> <p>第10条 正会員は、本会の目的に賛同し、看護学を研究する個人であって、社員総会の定める基準に基づき理事会の承認を得た者とする。</p> <p>2 正会員は、学会総会に出席し、議決権を行使することができる。</p> <p>3 正会員は、学術集会に参加し、学会誌に投稿し、かつ学会誌等の配布を受けることができる。</p> <p>4 正会員は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号。以下「法人法」という。）に規定された次に掲げる社員の権利を、代議員と同様に当法人に対して行使することができる。</p>	<p>第3章 会 員</p> <p>（会員の種類）</p> <p>第9条 本会の会員は次のとおりとする。</p> <p>① 正会員 ② 学生会員 ③ 賛助会員 ④ 名誉会員</p> <p>（正会員）</p> <p>第10条 正会員は、本会の目的に賛同し、看護学を研究する個人であって、社員総会の定める基準に基づき理事会の承認を得た者とする。</p> <p>2 正会員は、学会総会に出席し、議決権を行使することができる。</p> <p>3 正会員は、学術集会に参加し、学会誌に投稿し、かつ学会誌等の配布を受けることができる。</p> <p>4 正会員は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号。以下「法人法」という。）に規定された次に掲げる社員の権利を、代議員と同様に当法人に対して行使することができる。</p>	<p>学生会員の創設のため。</p>

変更前	変更後	変更の根拠・理由
<p>①法人法第14条第2項の権利（定款の閲覧等）</p> <p>②法人法第32条第2項の権利（社員名簿の閲覧等）</p> <p>③法人法第57条第4項の権利（社員総会の議事録の閲覧等）</p> <p>④法人法第50条第6項の権利（社員の代理権証明書等の閲覧等）</p> <p>⑤法人法第52条第5項の権利（電磁的方法による議決権行使記録の閲覧等）</p> <p>⑥法人法第129条第3項の権利（計算書類等の閲覧等）</p> <p>⑦法人法第229条第2項の権利（清算法人の貸借対照表等の閲覧等）</p> <p>⑧法人法第246条第3項、第250条第3項及び第256条第3項の権利（合併契約等の閲覧等）</p> <p>（賛助会員）</p> <p>第11条 賛助会員は、本会の目的に賛同する個人又は団体であつて、社員総会の定める基準に</p>	<p>①法人法第14条第2項の権利（定款の閲覧等）</p> <p>②法人法第32条第2項の権利（社員名簿の閲覧等）</p> <p>③法人法第57条第4項の権利（社員総会の議事録の閲覧等）</p> <p>④法人法第50条第6項の権利（社員の代理権証明書等の閲覧等）</p> <p>⑤法人法第52条第5項の権利（電磁的方法による議決権行使記録の閲覧等）</p> <p>⑥法人法第129条第3項の権利（計算書類等の閲覧等）</p> <p>⑦法人法第229条第2項の権利（清算法人の貸借対照表等の閲覧等）</p> <p>⑧法人法第246条第3項、第250条第3項及び第256条第3項の権利（合併契約等の閲覧等）</p> <p>（学生会員）</p> <p>10条の2 学生会員は、本会の目的に賛同し、社員総会の定める基準に基づき理事会の承認を得た者とする。但し正会員になることを妨げない。</p> <p>2 学生会員は、学術集会に参加することができ、学会誌、ガイドライン等を閲覧し、本会が主催するセミナーに参加することができる。</p> <p>（賛助会員）</p> <p>第11条 賛助会員は、本会の目的に賛同する個人又は団体であつて、社員総会の定める基準に</p>	<p>学生会員の創設のため、第10条の次に次の1条を加える。（第10条の2）</p> <p>※以降の条ずれを避けるため、枝番による追加</p>

変更前	変更後	変更の根拠・理由
<p>基づき理事会の承認を得たものとする。</p> <p>(名誉会員)</p> <p>第12条 名誉会員は、看護学の発展に多大の寄与をした者の中から、理事会及び社員総会の承認を得たものとする。</p> <p>2 名誉会員は、社員総会に出席し意見を述べることができる。</p> <p>3 第1項の承認について、理事長は、学会総会に報告しなければならない。</p> <p>(入会)</p> <p>第13条 正会員又は賛助会員として本会に入会を希望するものは、入会申込書を理事長に提出し、社員総会の定める基準に基づき理事会の承認を受けなければならない。</p> <p>(資格の喪失)</p> <p>第15条 会員は、次の理由によりその資格を喪失する。</p> <p>① 第16条の規定により退会したとき</p> <p>② 会費を請求日後1年間納付しなかったとき</p> <p>③ 死亡若しくは失踪宣告を受けたとき又は解散したとき</p> <p>④ 第17条の規定により除名されたとき</p> <p>⑤ その他法令で規定する事由に該当したとき</p> <p>(任期)</p>	<p>基づき理事会の承認を得たものとする。</p> <p>(名誉会員)</p> <p>第12条 名誉会員は、看護学の発展に多大の寄与をした者の中から、理事会及び社員総会の承認を得たものとする。</p> <p>2 名誉会員は、社員総会に出席し意見を述べることができる。</p> <p>3 第1項の承認について、理事長は、学会総会に報告しなければならない。</p> <p>(入会)</p> <p>第13条 正会員、学生会員及び賛助会員 (以下、「会員」という。)として本会に入会を希望するものは、入会申込書を理事長に提出し、社員総会の定める基準に基づき理事会の承認を受けなければならない。</p> <p>(資格の喪失)</p> <p>第15条 会員は、次の理由によりその資格を喪失する。</p> <p>① 第16条の規定により退会したとき</p> <p>② 会費を請求日後1年間納付しなかったとき</p> <p>③ 死亡又は失踪宣告を受けたとき若しくは解散したとき</p> <p>④ 第17条の規定により除名されたとき</p> <p>⑤ 学生会員が、卒業、修了又は退学したとき</p> <p>⑥ その他法令で規定する事由に該当したとき</p> <p>(任期)</p>	

変更前	変更後	変更の根拠・理由
<p>第19条 代議員の任期は-中略-とする。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、-中略-、責任追及又は理事もしくは監事の解任の訴え-後略-。</p> <p>(権限)</p> <p>第21条 社員総会は次の事項について決議する。</p> <p>① 正会員及び賛助会員の入会の基準及び会費の額</p> <p>② 名誉会員の承認</p> <p>③ 会員の除名</p> <p>④ ~⑨ 略</p>	<p>第19条 代議員の任期は-中略-とする。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、-中略-、責任追及又は理事若しくは監事の解任の訴え-後略-。</p> <p>(権限)</p> <p>第21条 社員総会は次の事項について決議する。</p> <p>① 会員の入会の基準及び会費の額</p> <p>② 名誉会員の承認</p> <p>③ 会員の除名</p> <p>④ ~⑨ 略</p> <p>附 則</p> <p>令和6年6月15日一部改正、令和7年1月1日施行</p>	<p>学生会員の募集は令和7年1月より行い、会員期間の開始は4月以降とするため。</p>

第3号議案

定款施行細則の改正（学生会員の設置）

改正の理由：学生会員の設置に関し、会費と災害時の減免を規定（第2条）

公益社団法人日本看護科学学会 定款施行細則 改正案 （対比表）

変更前	変更後	変更の根拠・理由
<p>(会費)</p> <p>第2条 本会の正会員の会費は、年額10,000円とする。</p> <p>2 本会の賛助会員の会費は、年額1口50,000円とする。</p> <p>3 正会員が地震・津波・台風などの自然災害、及びその他非常事態により損害を受けた場合、理事会の承認により会費を減免することができる。</p> <p>4 正会員の会費の30%以上を公益目的事業に充当し、70%以内を法人運営管理費用に充てるものとし、その配分は事業年度ごとに理事会の決議により定めるものとする。</p>	<p>(会費)</p> <p>第2条 本会の正会員の会費は、年額10,000円とする。</p> <p>2 本会の学生会員の会費は、年額3,000円とする。</p> <p>3 本会の賛助会員の会費は、年額1口50,000円とする。</p> <p>4 正会員、学生会員及び賛助会員が地震・津波・台風などの自然災害、及びその他非常事態により損害を受けた場合、理事会の承認により会費を減免することができる。</p> <p>5 正会員の会費の30%以上を公益目的事業に充当し、70%以内を法人運営管理費用に充てるものとし、その配分は事業年度ごとに理事会の決議により定めるものとする。</p> <p style="text-align: center;">附 則</p> <p>令和6年6月15日一部改正、令和7年1月1日施行</p>	<p>学生会員の創設のため。※定款の会員の種類の順に合わせて2条の2項に追加。以降の項を繰り下げ。会費減免の対象となるよう修正。</p> <p>学生会員の募集は令和7年1月より行い、会員期間の開始は4月以降とするため。</p>

第4号議案

会員資格基準の改正（学生会員の設置および正会員の業績条件）

改正の理由：

- ① 正会員の資格基準の改正（第2条、第5条）
- ② 学生会員の設置に関し、資格基準を規定（第1条、第3条）
上記による条項の繰り下げ、微修正あり

公益社団法人日本看護科学学会 会員資格基準 変更案対比表

現行	変更案	変更点および変更理由
<p>第1条 公益社団法人日本看護科学学会定款第10条及び第11条の規定に基づき、本会理事会における会員の選考は、この基準により行う。</p> <p>第2条 本会正会員の選考は、次の各号の一つに該当し、第4条に定める業績基準を満たす者について行う。</p> <p>① 看護学を専攻し、大学（短期大学を含む）および研究所等において、教育、研究に従事している者</p> <p>② 看護を実践し、看護学に関する業績のある者</p> <p>③ 看護関連科学の研究業績を有する者</p>	<p>第1条 公益社団法人日本看護科学学会定款第10条、第10条の2及び第11条の規定に基づき、本会理事会における会員の選考は、この基準により行う。</p> <p>第2条 本会正会員の選考は、次の各号の一つに該当し、第5条に定める業績基準を満たす者について行う。</p> <p>①看護学を専攻し、大学（短期大学を含む）及び研究所等において、教育、研究に従事している者</p> <p>②看護を実践し、看護学に関する業績のある者</p> <p>③看護学に関連する研究業績を有する者</p> <p>第3条 本会学生会員の選考は、次の各号のすべてを満たす者について行う。</p> <p>①看護基礎教育課程又は看護学に関連した専攻の大学院（修士課程又は博士前期課程、若しくは</p>	<p>定款10条の2に学生会員の条追加のため。</p> <p>現行の「看護関連科学」の文言が理解し難いこと、他分野からの入会を阻んでいることから「看護学に関連する」に変更</p> <p>学生会員の設置に伴い学生会員の専攻について追記</p>

<p>第3条 本会の賛助会員の選考は、看護および保健医療福祉の分野において貢献している個人又は団体とする。</p> <p>第4条 入会申込時の研究業績の最低条件は以下のとおりとする（いずれかに該当すること）。</p> <p>① 論文名を明示した修士論文（他学問分野の修士論文も内容が看護に関連していれば可とする。）あるいは修士論文に代わる特定課題研究</p> <p>② 看護に関する著書（分担部分を明記すること。）</p> <p>③ 1 件以上の、全国規模の看護系学会あるいは看護関連学会での研究発表（演題名、学会名、抄録誌への掲載頁、発表年月、申込者を含めた共同研究者名を明記すること。）但し、当該年次の本会学術集会への応募演題が採択された場合は、この発表を 1 件として認める。</p> <p>④ 1 件以上の、全国規模の看護系学会誌あるいは看護関連学会誌への研究論文（この場合、その論文の種類は問わない。論文表題、掲載誌名と巻号頁、発表年月、申込者を含めた共同研究者名を明記すること。）</p>	<p>博士後期課程）に所属している学生</p> <p>②正会員1名の紹介があること</p> <p>第4条 本会の賛助会員の選考は、看護及び保健医療福祉の分野において貢献している個人又は団体とする。</p> <p>第5条 本会正会員として入会するために必要な研究業績の条件は、次の各号のいずれかを満たすものとする。</p> <p>① 看護学に関連する学術雑誌への掲載論文 1 編以上（論文表題、掲載誌名と巻号頁、発表年月、申込者を含めた共同研究者名を明記すること。）</p> <p>② 看護学に関連する著書 1 冊以上（分担部分を明記すること）</p> <p>③ 看護学に関連する修士論文又は博士論文、若しくは修士論文に代わる特定課題研究</p> <p>④ 看護学に関連する学会等での研究発表 1 件以上（演題名、学会名、抄録誌への掲載頁、発表年月、申込者を含めた共同研究者名を明記すること。）但し、当該年次の本会学術集会への応募演題が採択された場合は、この発表を 1 件と認める。</p>	<p>会員資格基準の変更に伴い変更</p> <p>現行④⑤⑦⑨が含まれるように変更</p> <p>現行②を変更</p> <p>現行①に博士論文を追記</p> <p>現行③⑧が含まれるように変更</p> <p><第4条の修正方針> *看護以外の分野の研究者が入会しやすいように、「看護系学会」の文言を「看護学に関連する」に変更</p>
--	--	--

<p>⑤ 1 件以上の、大学・短期大学・研究所紀要への研究論文（この場合、その論文の種類は問わない。論文表題、掲載誌名と巻号頁、発表年月、申込者を含めた共同研究者名を明記すること。看護学校の紀要は該当しない。）</p> <p>⑥ 2 件以上の研究報告書（ただし、当該研究報告書に研究代表者、研究分担者、研究協力者として本人の氏名が明記されていること。本人が代表者でない場合は研究代表者名を明記すること。）</p> <p>⑦ 2 件以上の、全国の読者を対象とした看護系雑誌あるいは看護関連雑誌への投稿論文（第 4 号括弧書きを準用する。）</p> <p>⑧ 2 件以上の、地方・地区規模での看護系学会あるいは看護関連学会での研究 発表（第 3 号括弧書きを準用する。）</p> <p>⑨ 3 件以上の、地方の読者を対象とした看護系雑誌あるいは看護関連雑誌への投稿論文（第 4 号括弧書きを準用する。）</p>	<p>第 5 条 この基準の改正は、定款第 1 3 条に基づき社員総会の決議により行う。</p> <p>附則 1 この基準の改正は、平成 2 2 年 1 月 1 日より施行する。 2 「一般社団法人日本看護科学学会入会時の研究業績</p>	<p>* 学術誌および学会発表において、現行は全国規模と地方規模が区別されているが、この会員資格基準の施行開始時から 15 年近く経ち、情報の均質化が進んだことから区別しないように変更</p> <p>第 6 条 この基準の改正は、定款第 1 3 条に基づき社員総会の決議により行う。</p> <p>附則 1 この基準の改正は、平成 2 2 年 1 月 1 日より施行する。 2 「一般社団法人日本看護科学学会入会時の研究業績の条件」の規</p>
---	---	--

<p>の条件」の規定は、この基準の改正により、平成21年12月31日に廃止する。</p> <p>附則 この基準の改正は、平成22年8月24日から施行する。</p>	<p>定は、この基準の改正により、平成21年12月31日に廃止する。</p> <p>附則 この基準の改正は、平成22年8月24日から施行する。</p> <p>附則 令和6年6月15日一部改正、同日施行。但し第1条及び第3条等の学生会員の資格新設に伴う変更については、令和7年1月1日より施行する。</p>	<p>学生会員の募集は令和7年1月より行い、会員期間の開始は4月以降とするため。</p>
---	--	--

第5号議案

名誉会員の承認

名誉会員についての定款上の規定

第12条 名誉会員は、看護学の発展に多大の寄与をした者の中から、理事会及び社員総会の承認を得たものとする。

2 名誉会員は、社員総会に出席し意見を述べることができる。

3 第1項の承認について、理事長は、学会総会に報告しなければならない。

第14条 会員は、社員総会で定める会費を納めなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、名誉会員は、会費の納入を要しない。

名誉会員推薦についての理事会申し合わせ事項 (2016年10月23日改正)

1) 「看護学の発展に多大の寄与をした」ことの解釈・・・次のいずれかに該当すること。

① JANSの理事長を務めた。

② JANSの役員を通算5期務めた。監事1期は理事2期として数える。

③ JANSの学術集會会長、国際学術集會会長を務めた。

④ 上記①～③に相当する働きをしたと理事会が認めた。

⑤ その他・・・看護学の発展に格段の貢献をした。

2) 下記の各項目に全て該当すること

a 満70歳以上

b 常勤の現職のないこと

c 理事・社員でないこと

d 本人の同意があること

2024年6月定時社員総会で名誉会員に推薦する会員

前頁の規定に基づき、以下の推薦が挙がり、2024年度第1回理事会（5月21日）にて承認した。

	南 裕子氏（会員番号：00309） 1942年6月13日 82歳
略 歴	<p>1965年 高知女子大学 衛生看護学科卒業</p> <p>1965年 横浜市立市民病院 看護師</p> <p>1967年 アメリカ合衆国政府がん看護・精神看護研修生</p> <p>1970年 高知女子大学助手</p> <p>1972年 イスラエルヘブライ大学ハダサ医学部社会医療学科修士課程修了</p> <p>1974年 高知女子大学助教授</p> <p>1982年 アメリカ合衆国 カリフォルニア大学サンフランシスコ校(UCSF)看護学部博士課程修了</p> <p>1982年 聖路加国際大学 教授</p> <p>1993年 兵庫県立看護大学 学長</p> <p>1999年 日本看護協会 会長(2005年まで)</p> <p>2004年 兵庫県立大学 副学長(2007年まで)</p> <p>2005年 国際看護師協会(ICN)会長(2009年まで)</p> <p>2005年 日本学術会議 会員、連携会員(2022年まで)</p> <p>2008年 近大姫路大学 学長</p> <p>2011年 高知県立大学 学長</p> <p>2019年 神戸市看護大学 学長</p>
受 賞 歴	<p>2011年 フローレンス・ナイチンゲール記章</p> <p>2018年 山上の光賞受賞</p> <p>2024年 瑞宝中綬章</p>
会 員 歴	1982年12月3日～2024年3月31日（42年）
学術集會会長歴	国際看護学術集會会長（1995年）
役 員 代 議 員 歴	<p>理 事 長 2005年～2007年、2007年～2009年</p> <p>理 事 1987年～1989年、1990年～1992年、1996年～1998年、2009年～2011年</p> <p>監 事 2015年～2019年、2019年～2023年</p> <p>代 議 員 2007年～2011年、2015年～2019年、2019年～2023年</p> <p>評 議 員 1987年～1989年、1990年～1992年、1996年～1998年、1999年～2001年、2005年～2007年</p>

学会総会のあり方の検討

● これまでの学会総会出席者一覧

	会場出席	委任状 書面決議	合計	会員数 (総会開催時)	開催形態
JANS39 (2019)	59	1,419	1,478	9,729	会場
JANS40 (2020)	114	2,297	2,411	9,894	ウェビナー
JANS41 (2021)	125	1,743	1,868	10,005	ウェビナー
JANS42 (2022)	90	2,061	2,151	10,215	会場
JANS43 (2023)	97	1,593	1,690	10,337	会場

● 学会総会アンケート 集計結果

実施時期：2024年3月13日（水）～3月27日（水）

対象：日本看護科学学会 正会員 10,368名／3月13日時点（メールアドレス登録数：10,326）

回答人数：403名

問1 あなたについておたずねします

1) 年齢

50-59歳	152		37.7%	[152/403]
60歳以上	108		26.8%	[108/403]
40-49歳	94		23.3%	[94/403]
30-39歳	29		7.1%	[29/403]
【無記入】	3		0.7%	[3/403]

2) おおよその会員歴

11年以上	224		55.6%	[224/403]
4～10年	102		25.3%	[102/403]
1～3年	53		13.2%	[53/403]
【無記入】	5		1.2%	[5/403]
未回答	2		0.5%	[2/403]

問2_1 今まで学会総会にご参加いただいたことがございますか？

ない	207		51.4%	[207/403]
ある	178		44.2%	[178/403]
【無記入】	1		0.2%	[1/403]

問2_2 「ある」と選択された方は、可能であれば参加されてのご感想をご記入ください。

臨床の現場にあまり寄り添っていない。





率直に申し上げて、一方通行だと思いました。会員の対話の場になるといいと思います。
有意義な内容が多く、知的好奇心を刺激されることが多いです。
有意義な時間でした。
内容だけでなく、知人や友人と会い、情報交換できたこともよかったです。
報告事項が多すぎて形式的になっている。事前に報告事項は知らせておき、疑問点があれば総会で発言するなど、時間の短縮、焦点化した方が良い。
報告事項が多い。ディスカッションにウエイトをかける運営にしてはどうかと思っています。
報告することが必要な会
評議員として出席したことがあるが、一般会員だったらきっと参加しないと思う。
発表者との距離が近く質問しやすかったです。また、同じような研究テーマの先生方とお話する機会もあったので、意見交換などができ研究のモチベーション向上につながりました。
発表の機会を頂けた事に感謝致します。
また、交流の場としても参加できて良かったです。
聴いているだけで、自分が議論に参画している感じはしない。
大きな学会なので、自分に直結する内容があまりないと感じた
代議員、社員などの役割があったため。
総会に参加はしましたが、あまり印象に残っていません。
人数が多くて目移りしてしまいました。
学会で懐かしい人たちにお会いする事ができて嬉しく思いました。
初期のころは、会員としても評議員としても、法人となる前の総会のイメージが強くて、あまり違いが分かりませんでした。最近では、一会員としての参加となりましたが、意見を求められても困るというか、理事会も社員総会でも議論されたことがまとめられた結果については、わざわざ学会総会で披露されなくても、web等で公開されてみられるからそれでよいと思っています。なので、名誉会員が出席されていれば、お元気なお姿を見たい、というミーハーな理由と、待ち合わせの場として活用させていただいている感じです。事務局も理事会の皆様も皆様気遣って説明の場を設けていただくご尽力を公益法人としての活動に向けてくださればよいと思います。論文表彰は会員にというより、社会に向けて何が選ばれたのか、その理由が大切ではないかと思いますが、学会総会で表彰式があるのはよいですが、会員しか会場には入れませんし、世の中とは別事項なきがします。名誉会員のご意見などをお招きするなら、一般参加者にも公開していただいて、お話が聞ければよいと思います。講演会などはご負担の方もいらっしゃると思いますが、お話しができる場というのがあれば、教科書を書いた人だ、というミーハーな若者が来てもよいと思いますし、旧交を重立させたいという研究者がいてもいい気がします。学会総会の場合では、そういうことができず、なんだかすごく形骸化されているにもかかわらず、すごく労力も心配りも金銭的な負担もあって、大変なんじゃないのかな、という気持ちが高まってしまっています。
若い頃でしたが、内容に興味を持てませんでした。また参加者も少なく総会の意味があるのかと思った記憶があります。それ以降は委任状にすることが多かったです。

自分が学会で何かの役割をすることになると、または、したことがあれば、総会の重要性はわかり、興味は持てるが、そのような経験がなければ、参加する意義がもてない。
時期が参加しにくい。
事業報告等があり学会活動を具体的に知ることができました。理事長のお考えを直接知ることのできる機会として大切な場と理解しています。
資料配布がないと理解が難しいことが多い。事前公開できるものはしていただけるとありがたい
参加者が非常に少なく、総会の意義が分からなかった。
参加者が思ったより少ないと感じた。
参加してよいものなのかわからず、昔はドキドキしていた記憶があります。最初は興味本位で参加しておりましたが、あまりそこにいる意味を感じなくなるようになってからは、大変申し訳ないのですが、不参加のことが多いです。
研究発表が充実していてとても勉強になりました。
形式的な総会かと思いきや、意外に？活発な議論がなされていて、学会への理解が深まりました。
形式のみかな。
簡略化できないかと感じました
看護領域における課題や方向性を理解できた。
看護界をリードするテーマが取り上げられていると感じた。他の学会も、いつも参考にしながら追随していると思う。
学会活動報告だけで、これと言って意見はありませんでした。
学会開催の時期に比し、抄録のメ切が速すぎる。 採択決定の連絡が遅い。遠方のへんぴな地方開催時の宿泊予約に苦慮する。 学会の発表レベルが年々低下しているように感じる。 座長など、マンネリ、あまり専門的と思われない人も多い。
学会運営や活動の内容についての理解は深まる。
学会の方向性がわかり、またディスカッションがあったことから多様な考えについて示唆が得られた
学会の動向がわかりよかった。
学会の取組や今後の学術集会の情報が得られた。
学会の活動方針や事業報告などを知ることができた。
学会の活動報告がしっかりされていると思っています。
学会の活動状況や動向を知る機会になった。
学会の活動や方向性がわかるため、ヒントを得ることができる。
学科としてどのような方向に進むのか知る機会になっています。
会費をどう活用されているか知ることができる。世の中の情勢と本学会のあり方を考える機会になる。
会員は蚊帳の外という雰囲気です。
科学学会設立当初の総会に参加させていただいたことが記憶に残っています。

<p>その時には看護を科学的に探求しようという機運が会全体にあったような印象を持ちました。</p> <p>その後も参加させていただいたときもありましたが、その内容についてはあまり記憶に残っていません。</p>
<p>どの学会も総会は似たような内容ではあるが、参加したいと思えるようなトピックスが短時間でもあればいいと思う。</p>
<p>その年の学会内の活動が、経費も含めてよくわかる貴重な経験でした。</p> <p>各委員の方の、運営上の苦労や体験などの生の声が、感想として一言あると、もっとリアリティのある報告として聞けるように感じます。</p>
<p>その場で時間をとるべき議題なのか分からないものもあった。</p>
<p>すでに決定されている内容を読み上げるだけという印象です。</p> <p>意見はありませんが、もしあったとしても、会場が広く参加者が少ないので、その場で発言はできそうにありません。</p>
<p>しばらく前の参加で自身が若かったこともあるかもしれませんが、参加することにより自身が得られるもの（情報など）や、総会への影響についてあまり実感が得られなかった印象が残っています。</p>
<p>この学会に限ったことではなく、ほぼ質疑応答なく進行するので、「その通りですね」という感想しか持てない。ただ運営側からみれば、年度計画、報告、会計報告などを会員の承認を得る必要もあると思う。</p>
<p>イベントからの流れで、気楽に出席できました</p>
<p>いつも丁寧な進行がされていると思います。</p>
<p>あるが、随分以前に現地参加した時の記憶であり、内容などほとんど覚えていない。COVID-19以前の時であるが、現地参加者は非常に少なく、ディスカッションも特になかった。</p>
<p>アカデミズムを重視した場に、看護学の全領域の発表が集まることで、ひごろ触れない分野について、演題タイトルを見るだけでも触れることができ、見識を広げアップデートするために大切な場だと思いました。専門知は各分野の先生のそれにとっても追いつきませんが、すそ野を同じくする者として発信と受信をし、共通理解をしていくことの大切さを実感できました。</p>
<p>2023年度の学会に参加したが、会場が狭く、会場に入れなかった場合の待ち時間も待つ場所がなく困った。エレベーターなども大混雑していた。残念だった。</p>
<p>「会員として学会の動向を知ってお活きた」ということで参加しました。</p> <p>事業の進捗状況の報告は興味津々で聞きました。</p>

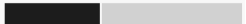

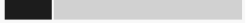
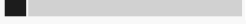
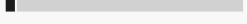
以上 56 件

問3 現在の学会総会の内容につきましてどう思いますか。

<p>適当である 280  69.5% [280/403]</p>
<p>どちらでもない 86  21.3% [86/403]</p>
<p>【無記入】 13  3.2% [13/403]</p>
<p>不適當である 7  1.7% [7/403]</p>


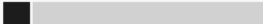

問4 学会総会の方向性につきましてお尋ねします。

現在の学会総会の権限として「学会総会は本会運営上の重要事項について、理事会に対し意見を具申する。」(定款第41条)とあり、この権限に基づき、総会成立の定足数や決議、議決権の代理行使(委任状による出席)等が定められ、厳格な規則の中で開催されていますが、今後も同様に開催することが好ましいと思いますか。

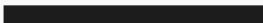
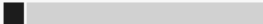

議決が必要である(従来のとおり、委任状、定足数の確認が必要な厳格なスタイルによる開催)	162		40.2%	[162/403]
議決は不要である(自由な意見を言える場として、従来の方法に縛られないライトなスタイルによる開催)	101		25.1%	[101/403]
議決は不要だが、学会の報告等従来の内容に沿ったスタイルによる開催	78		19.4%	[78/403]
特になし	33		8.2%	[33/403]
【無記入】	12		3.0%	[12/403]

問5 学会総会の内容で、必要だと思うものは「あり」、不要だと思うものは「なし」を選択してください。(複数回答)


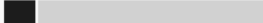

問5_1 理事長のビジョンと運営方針

問5_1				
あり	344		85.3%	[344/403]
なし	32		7.9%	[32/403]
【無記入】	10		2.5%	[10/403]




問5_2 委員会のミッションと次年度事業計画について

問5_2				
あり	352		87.3%	[352/403]
なし	23		5.7%	[23/403]
【無記入】	11		2.7%	[11/403]




問5_3 次年度予算について

問5_3				
あり	335		83.1%	[335/403]
なし	37		9.2%	[37/403]
【無記入】	14		3.5%	[14/403]


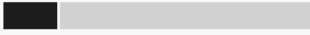
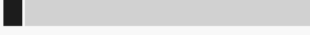
問5_4 名誉会員の就任報告

問5_4				
なし	198		49.1%	[198/403]
あり	159		39.5%	[159/403]
【無記入】	29		7.1%	[29/403]


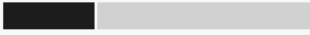
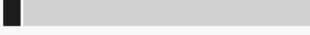
問 5_5 日本看護科学学会学術集会会長の選任報告

問5_5				
あり	300		74.4%	[300/403]
なし	72		17.9%	[72/403]
【無記入】	14		3.5%	[14/403]

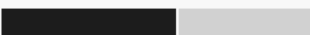

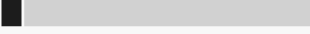
問 5_6 理事会へのご意見

問5_6				
あり	298		73.9%	[298/403]
なし	67		16.6%	[67/403]
【無記入】	21		5.2%	[21/403]



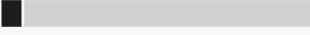
問 5_7 論文表彰 表彰式

問5_7				
あり	249		61.8%	[249/403]
なし	118		29.2%	[118/403]
【無記入】	19		4.7%	[19/403]


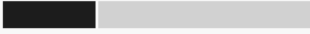
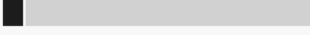
問 5_8 JANS 会員による講演

問5_8				
なし	231		57.3%	[231/403]
あり	132		32.8%	[132/403]
【無記入】	23		5.7%	[23/403]

問 5_9 外部からの講演

問5_9				
なし	221		54.8%	[221/403]
あり	143		35.5%	[143/403]
【無記入】	22		5.5%	[22/403]

問 5_10 開催地の興行

問5_10				
なし	245		60.8%	[245/403]
あり	119		29.5%	[119/403]
【無記入】	22		5.5%	[22/403]

問 5_11 その他、何か必要だと思う内容がございましたら下記にご記載ください。

理事会への意見を募集する方法は、総会でなくとも構わないのですが、もし総会で募集するのでしたら、事前に資料を頂けると大変ありがたいです。

理事会として特に必要だと考えることのみをその都度議事にあげていただければと思います。


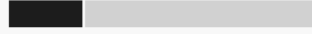
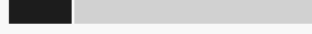
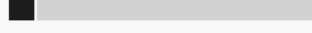

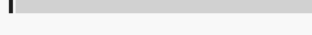
予算については、紙面やホームページなどを活用してもよいのではないかと思います。
保険等、他団体との交渉等について
文章ではだめでしょうか？オンデマンドなど
日本学術会議に関する活動内容
大きな学会であり、予算規模が大きく事業も多様である。したがって、きちんとした（実効性のある方法で）報告責任を果たす必要がある。ただし、学術集会の中で開催することだけを規定して、開催要件については問わないようにしてもよいだろう。
全て、オンラインとすることが良いと思います。特に、議決はオンラインで行うとよいと考えます。
事前の意見集約：会員に対して、事前に意見集約が必要。
参加していないのに、回答していいのか悩みながら回答しました。
口頭報告する内容、紙面報告のみの内容などに分けてほしいと思います。
議決に関係ないもの（出席者の意思を反映しようがないもの）については、総会から切り離して開催日 AM に開催してはと思う。議決に関係ないものは、「開催地の興行」や「論文表彰」「学術集会会長の選任報告（次期学術集会でしょうか？）」などのように、より多くの方に直接出席してもらおう中での開催が好ましい企画が多いように思います。
基本的には、審議事項と報告事項と表彰のみでよい 講演は、総会とは別枠で時間を確保 開催地の興行は不要だが、必要であれば懇親会で実施
簡略化していただきたい。
学会として決めるべきことのみ対面で自由に議論すべきだと思います。
各委員会報告は不要かもしれませんが、公募事業や特設事業の紹介や経過報告などをお願いできればありがたく存じます。
会費を徴収している組織なので、理事長のビジョン、事業計画、予算、だけでなく、前年度事業報告、決算報告、があったほうが良いのではないかと考えます。
会計報告
なしと回答したものは、総会で実施しなくてもよいという意味で、学術集会のプログラムに組み込むなど方法を変え、総会を縮小する
すべてなしといたしましたが、報告事項なのであれば学会 HP での提示のみで問題ないと思います。審議が必要なもののみ、オンライン投票等で決議するのはいかがでしょうか。
ご準備が大変ですと学会運営にかかわる教員の先生方の業務が膨大になると思われます。できる限り簡便に、低予算で会議が行われるよう工夫されるとよいと思います。
オンデマンドで録画したものを学会 HP へ会員限定で掲載すればいいと思う。総会の準備など学術集会の大会運営に負担が大きいし、参加も少ないし、スケジュールに入れ込むのも難しいように思う。
エビデンスの構築やディスカッションがあると、看護研究の質の向上に寄与できるのではないかと思います。同じような研究報告ばかりで、看護学の知の高地に至っていないと忸怩たる思いがあります。
あり、なし、に関わらず HP 上の情報公開と意見フォームをお願いいたします。

JANA 会員による講演は、理事長による講演でもよいと思います。

「あり」としたものも、簡単でよいです。読んでわかるものは、個々で読めばよいとかがえま
す。

以上 26 件

問 6_1 学会総会の開催方法につきましてご希望をご選択ください。

オンライン開催	172		42.6%	[172/403]
特設ページをHPに設置 資料掲載のみ（対面・LIVE配信はなし）	96		23.7%	[96/403]
対面開催	81		20.1%	[81/403]
その他	30		7.3%	[30/403]
【無記入】	6		1.5%	[6/403]
開催しない	1		0.2%	[1/403]

問 6_2 【その他を選択の場合は、ご記入下さい】

対面開催及び資料の HP 掲載
対面開催でもオンライン開催でも可
対面とオンライン両方
対面とオンライン開催
対面とオンラインの併用
対面とオンラインのハイブリッド開催
対面とオンラインのハイブリッド開催
対面とオンラインのハイブリッド
対面とオンラインのハイブリッド
対面とオンラインのハイブリッド
対面が基本、オンラインも後日短期間で配信
対面・オンライン併用
対面+オンライン（ハイブリッド）
対面+オンライン
対面、オンラインのハイブリッド
出来ればハイブリッド希望
事前または当日に資料配布
学術集会が対面を主体とする場合対面、オンライン開催のみの場合オンライン開催
意見のみ事前に投稿できる形式にして、オンデマンド配信が良いのではないのでしょうか。
ライブもよいけれど、オンデマンド配信はいつでもアクセスできます。意見を言いたいなら、別途期間を設けて受け付けて、その後、個人ではなく会員全員に通知や HP にアップでもよいと思います。
ハイブリッド方式
ハイブリッド方式
ハイブリッド形式

ハイブリッド開催希望
ハイブリッド開催
ハイブリッド開催
ハイブリッド開催
ハイブリッド開催
ハイブリッドもしくはオンデマンド
ハイブリッド・オンデマンドあり
ハイブリッド
ハイブリット
ハイブリット
オンラインと対面の同時開催
オンラインと対面のハイブリッド
オンデマンド

以上、36件

問7 その他、学会総会に関するご意見をお聞かせください。

<p>理事長のメッセージ、論文表彰など対面開催ならではものに絞り、後はオンラインで十分だと思う。学会・理事会が十分に機能しているかどうかは、選挙によりある程度、意見を反映できる。</p>
<p>理事や委員の先生方にはご尽力いただき、感謝しております。</p>
<p>問4の質問が不明です。「学会総会は本会運営上の重要事項について、理事会に対し意見を具申する。」(定款第41条)」と自由に意見を述べるといことは別の様に思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>年一回の総会なので今の方法でよいと思います。 講演や開催地興行はわざわざ総会では必要ないかと思えます。 意見を出し合う機会として十分活かすことが第一と思えます。</p>
<p>東日本在住です。 このところ西日本に偏って開催(広島、山口、つぎは熊本)されており、また山口県では大都市がないため宿泊施設の選択に苦労しました。都市、開催地の選択を考えていただきたい。 交通費が発生し、若手研究者や学生、院生は参加しにくいと思えます。 山口では、会場が混雑して食堂が売り切れとなり、夜は飲食店が予約づくしでどこも入れませんでした。地域では経済が潤ったとは思いますが、東日本の研究者には発表の機会が限られてしまいます。</p>
<p>知的好奇心が刺激されるシンポジウムや研修、発表が多く、学会担当者の方には感謝いたします。その中で興味のある分野の時間が重複していることが多いため、是非ともハイブリッドにさせていただき、より多くの講演・シンポジウムや発表を聴講したいと希望します。今後も時代に沿った会員のニーズに応じた興味深いテーマで開催されることを希望いたします。</p>

<p>大きな学会ですので、議題が多いのはわかるのですが、報告事項が多いように思います。ご報告により、学会の運営が見えるので、学会の理解にはつながるのですが。出席者数が多いことや時間が押すこともあり、意見をいうのをはばかる先生もおられるのではないかと思います。オンラインにして、旅費支給やその事務手間の省略をしてはどうか。</p>
<p>対面の学会総会が良いと思いますが、いつも実習時期にあたるため感染予防の観点から参加しづらいです。時期を少しずらすなど検討していただきたいです。</p>
<p>総会資料を総会前に配信していただき、意見や質問などを活発にできるような時間枠をつくって欲しい。</p>
<p>総会に対しては特にない。 研究発表に質が低下したように思うが、私だけでしょうか？</p>
<p>正式な手続きとして総会による議決は必要だと思いますが、形骸化しているのが実情かと思えます。できるだけ不要な負担を減らして、時間と労力を有効に活用していけるように変革して頂ければと思います。</p>
<p>政治的に中立とは言えない日本学術会議とは距離をとってはいかがですか？</p>
<p>世代交代を順次していくことを記載します。</p>
<p>従来のやり方や順序性の良い面を残しつつ、新たなアイデアも取り入れ、少しずつ変えてゆけばよいと思う。</p>
<p>若いころは、学会総会の持つ意味もよく分かりませんでした。きちんと場を設け年度計画やまとめをする大切さを感じ、決して無意味なこととは思いません。しかし、大変お忙しい中の運営であるため、できるだけ簡素に行っていきたいのではないかと推測致しました。そのため、最初に、このアンケートを行う動機、現在の学会総会における問題点をご教示頂きたい。それによって、回答内容が変わると思います。</p>
<p>実習のためほとんど参加できない。 参加からしばらく離れているため、よくわからない。</p>
<p>事務局、役員の皆様のご尽力に感謝申し上げます。役員、会員双方にとって有益な場となりますことを願っております。</p>
<p>紙面だけの手続きにすると、全く見ない会員も出てくる可能性がある。 このため、資料掲載だけという方法は問題があると思います。 しかし、この先、デジタルデータで対応するのが一般的になった場合は、時代に応じた方法で行えばよいと思います。</p>
<p>決議事項はオンラインで学術大会は、研究発表に関する表彰等を優先</p>
<p>形式的・形骸化しているため、簡略化していただきたい</p>
<p>業務負担等が増すなか、ワークライフバランスも考慮した持続可能かつ最善の方法をご選択頂けますとありがたく存じます。</p>
<p>議決権が、実質意味がないように思う。もう議決ありきなのだったら、あえて議決しなくてもよいと思う。</p>
<p>議決をするのであれば対面、オンラインの併用でもよいと思う。参加者が少なく議長に一任が多いのであればHPに資料掲載でもよいと思います。</p>

<p>議決が必要かどうかは、迷いました。</p> <p>ライトなスタイルとは、具体的にどのような形をイメージしているのでしょうか。</p> <p>現在の厳格な形では、一番何が大変なのでしょうか。</p> <p>それによって『議決が必要かどうか』は多少左右されるのではないかと思います。</p>
<p>基本的には今まで通りでよいと思います。</p>
<p>感想に書きました。よろしく願いいたします。</p>
<p>学会費が徴収され会員も多いので、予算関連、事業計画の報告は必要だと思う。</p>
<p>学会中ですと、打ち合わせや準備などで参加することが難しい人もいます。</p> <p>学会総会をインターネットを使用した形で進めることも検討していただけると助かります。</p>
<p>学会総会を学術集会の際に行うのであれば、対面開催でよいと思います。そうでなければ、開催せずに、HPに資料掲載のみでもよい。</p>
<p>学会全体で決めないといけないことを、対面で自由に議論できる場として、開くべきだと思います。</p>
<p>学会活動は重要ですが、そのために研究や看護実践をする時間や労力を奪われては本末転倒のように思います。なるべく運営する先生方に負担のかからない方法を取れば良いのではないかと思います。</p>
<p>学会の受賞者を参加者の1%程度にするなど、受賞者数が増やせるとありがたいです。その場合、授賞式は不要です。科研費の計画書に記載できれば、看護以外の区分に応募した際も、採択率が上がりそうです。また、他の分野の先生方と看護学の共同研究が増えるよう、ファーストオーサー以外の共同研究者は学会員でなくともよい、としていただけるとありがたいです。</p>
<p>開催時間を学会中の昼などにして、参加者にお弁当が付くなどすると参加しやすい。夕方の開催となると、総会に参加したくても研究仲間と旧知の仲を深める時間が優先されてしまう。</p>
<p>会員数の増加により、会員個々に、学会そのものの存在価値が理解されるような事業運営を期待します。総会も厳格なものより、活動内容やその社会的成果のような内容がわかるような内容になるとよいのでは、と考えます。</p>
<p>会員には、オンデマンド配信を一部だけでなく、全体でやってもらえたらと思う。</p>
<p>会の公平性・運営の透明化を図るために、上記要否をお尋ねになられたことは重要だと考えています。この時間を退屈に感じる会員さん、「この時間でほかの講演を」と考える会員さんがいらっしゃるかどうかわかりませんが、もしあるなら、それは会が健全な運営をしているからだと考えます。オンラインで議決権があることも大変良いです。会場形式はいつの時期に行っても参加しにくい人が出るでしょうが、冬季の開催だと北海道・東北地方など積雪地での開催が困難かと思えます。主催側は慣れていても、それ以外の地域からくる方が雪に不慣れ、装備を持っていないなどあるでしょうから。交通便の運休も比較的增加る時期です。雪のない季節の開催なら、会場持ち回りもしやすくなるかと思えます。</p>
<p>委員会メンバーや理事などがいつも同じメンバーです。これだけ人材が豊富な学会ですので、もっと若手を採用したり、理事会を刷新するなどの改革があってもよいのではないかと思います。</p>

<p>大きな学会ですので、議題が多いのはわかるのですが、報告事項が多いように思います。ご報告により、学会の運営が見えるので、学会の理解にはつながるのですが。出席者数が多いことや時間が押すこともあり、意見をいうのをはばかる先生もおられるのではないかと思います。オンラインにして、旅費支給やその事務手間の省略をしてはどうか。</p>
<p>対面の学会総会が良いと思いますが、いつも実習時期にあたるため感染予防の観点から参加しづらいです。時期を少しずらすなど検討していただきたいです。</p>
<p>総会資料を総会前に配信していただき、意見や質問などを活発にできるような時間枠をつくって欲しい。</p>
<p>総会に対しては特にない。 研究発表に質が低下したように思うが、私だけでしょうか？</p>
<p>正式な手続きとして総会による議決は必要だと思いますが、形骸化しているのが実情かと思えます。できるだけ不要な負担を減らして、時間と労力を有効に活用していけるように変革して頂ければと思います。</p>
<p>政治的に中立とは言えない日本学術会議とは距離をとってはいかがですか？</p>
<p>世代交代を順次していくことを記載します。</p>
<p>従来のやり方や順序性の良い面を残しつつ、新たなアイデアも取り入れ、少しずつ変えてゆけばよいと思う。</p>
<p>若いころは、学会総会の持つ意味もよく分かりませんでした。きちんと場を設け年度計画やまとめをする大切さを感じ、決して無意味なこととは思いません。しかし、大変お忙しい中の運営であるため、できるだけ簡素に行っていきたいのではないかと推測致しました。そのため、最初に、このアンケートを行う動機、現在の学会総会における問題点をご教示頂きたい。それによって、回答内容が変わると思います。</p>
<p>実習のためほとんど参加できない。 参加からしばらく離れているため、よくわからない。</p>
<p>事務局、役員の皆様のご尽力に感謝申し上げます。役員、会員双方にとって有益な場となりますことを願っております。</p>
<p>紙面だけの手続きにすると、全く見ない会員も出てくる可能性がある。 このため、資料掲載だけという方法は問題があると思います。 しかし、この先、デジタルデータで対応するのが一般的になった場合は、時代に応じた方法で行えばよいと思います。</p>
<p>決議事項はオンラインで学術大会は、研究発表に関する表彰等を優先</p>
<p>形式的・形骸化しているため、簡略化していただきたい</p>
<p>業務負担等が増すなか、ワークライフバランスも考慮した持続可能かつ最善の方法をご選択頂けますとありがたく存じます。</p>
<p>議決権が、実質意味がないように思う。もう議決ありきなのだったら、あえて議決しなくてもよいと思う。</p>
<p>議決をするのであれば対面、オンラインの併用でもよいと思う。参加者が少なく議長に一任が多いのであればHPに資料掲載でもよいと思います。</p>

<p>議決が必要かどうかは、迷いました。</p> <p>ライトなスタイルとは、具体的にどのような形をイメージしているのでしょうか。</p> <p>現在の厳格な形では、一番何が大変なのでしょうか。</p> <p>それによって『議決が必要かどうか』は多少左右されるのではないかと思います。</p>
<p>基本的には今まで通りでよいと思います。</p>
<p>感想に書きました。よろしくお願ひいたします。</p>
<p>学会費が徴収され会員も多いので、予算関連、事業計画の報告は必要だと思う。</p>
<p>学会中ですと、打ち合わせや準備などで参加することが難しい人もいます。</p> <p>学会総会をインターネットを使用した形で進めることも検討していただけると助かります。</p>
<p>学会総会を学術集会の際に行うのであれば、対面開催でよいと思います。そうでなければ、開催せずに、HPに資料掲載のみでもよい。</p>
<p>学会全体で決めないといけないことを、対面で自由に議論できる場として、開くべきだと思います。</p>
<p>学会活動は重要ですが、そのために研究や看護実践をする時間や労力を奪われては本末転倒のように思います。なるべく運営する先生方に負担のかからない方法を取れば良いのではないかと思います。</p>
<p>学会の受賞者を参加者の1%程度にするなど、受賞者数が増やせるとありがたいです。その場合、授賞式は不要です。科研費の計画書に記載できれば、看護以外の区分に応募した際も、採択率が上がりそうです。また、他の分野の先生方と看護学の共同研究が増えるよう、ファーストオーサー以外の共同研究者は学会員でなくともよい、としていただけるとありがたいです。</p>
<p>開催時間を学会中の昼などにして、参加者にお弁当が付くなどすると参加しやすい。夕方の開催となると、総会に参加したくても研究仲間と旧知の仲を深める時間が優先されてしまう。</p>
<p>会員数の増加により、会員個々に、学会そのものの存在価値が理解されるような事業運営を期待します。総会も厳格なものより、活動内容やその社会的成果のような内容がわかるような内容になるとよいのでは、と考えます。</p>
<p>会員には、オンデマンド配信を一部だけでなく、全体でやってもらえたらと思う。</p>
<p>会の公平性・運営の透明化を図るために、上記要否をお尋ねになられたことは重要だと考えています。この時間を退屈に感じる会員さん、「この時間でほかの講演を」と考える会員さんがいらっしゃるかどうかわかりませんが、もしあるなら、それは会が健全な運営をしているからだと考えます。オンラインで議決権があることも大変良いです。会場形式はいつの時期に行っても参加しにくい人が出るでしょうが、冬季の開催だと北海道・東北地方など積雪地での開催が困難かと思ひます。主催側は慣れていても、それ以外の地域からくる方が雪に不慣れ、装備を持っていないなどあるでしょうから。交通便の運休も比較的增加る時期です。雪のない季節の開催なら、会場持ち回りもしやすくなるかと思ひます。</p>
<p>委員会メンバーや理事などがいつも同じメンバーです。これだけ人材が豊富な学会ですので、もっと若手を採用したり、理事会を刷新するなどの改革があつてもよいのではないかと思います。</p>

せっかく充実した様々な活動をされていると思うのですが、会員にいまいちリアルタイムでその熱量が伝わってきにくい感じがもったいなく感じます。お知らせページの新着情報も、日々多いので、全てをMLに投稿されるのは難しいのかもしれませんが、例えば月1でMonthly report みたいなかんじでお知らせ一覧をお送り頂くとかでもありがたいです。ご検討いただければ幸いです。

コロナ後でもあり、学会員のリモート参加でもよいのではないかと思います。動画をあげて、視聴後に回答、集計、決議など、方法を変えてもよいのではないのでしょうか。

これまでの学会総会の内容は重要な事柄のため、ホームページに資料掲載していただくとよいと思いました。オンライン開催だと多くの人に参加できるので、そこで学会の方針や最新の情報が伝えられるとよいと思いました。自由な意見交換はしづらいかもしれませんが、多くの会員に有益な情報が得られるとありがたいと思っています。

このアンケート実施することになった背景は参加者が少ないということでしょうか？
学会会員として、学会運営に協力をということであれば、積極的に参加します。
看護の第一線で活躍されている先生方のお話を聞ける貴重な機会と思っています。

オンライン開催もしくは特設ページ HP 設置などで学会総会を資料送付有で行っていただけるとありがたいです

ありがとうございました。

以上、43件

